BOOK NEWS from MARUZEN-YUSHODO

2025.07.30 作成

2025 年 7 月新聞書評に掲載された本

携帯遺産

鈴木結生 著
朝日新聞出版
知己の編集者から自伝小説の執筆を依頼された、ファンタジー作家の舟暮按。<飛行>と<蒐集>を手掛かりに、膨大な「人生の記録」を探索するなか、やがて彼女は生き別れた父を求め始め…。『小説トリッパー』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/07/06

2025:6./ 205p
978-4-02-252060-9
¥1,870〔税込〕

川は流れる

森 詠 著
小学館
北関東・黒羽藩。幕末の激流にただ一人、革命を志す若き侍がいた-。青年下士・板倉誠之介は、ただの武士としてではなく、民のために生きることを目指し…。人の生きる意味を問う書。『公明新聞』連載を改稿加筆し単行本化。

産経新聞 2025/07/06

2025:6./ 380p
978-4-09-386751-1
¥2,750〔税込〕

境界で踊る生命の哲学～皮膚感覚から意識、言語、創造まで～

傳田　光洋 著
東京大学出版会
とりとめのない放浪研究生活の中で、とても大切に思えること、それが見えてきた気がした-。皮膚学者がおもしろ実験エピソードを紹介しながら、科学の各領域から意識、言語、社会、芸術までやわらかく語りつくす。

産経新聞 2025/07/06

2025:3./ 258p
978-4-13-013084-4
¥3,520〔税込〕

ロバート・ワイアット

マーカス・オデア 著
国書刊行会
心をゆさぶる歌声で稀有な世界を紡いできた伝説的ミュージシャン、ロバート・ワイアット。時代や国をこえて愛される彼の人生を、英国音楽シーンの証言と豊富な写真により描く評伝。

産経新聞 2025/07/06

2025:6./ 503p
978-4-336-07762-2
¥6,600〔税込〕

●ご注文の際には，タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
●原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
●ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部（課）までお申し付けください。
●表示価格は 2025 年 7 月時点での税込み価格です。

MARUZEN-YUSHODO
丸善雄松堂株式会社 ［学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部］
〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23 東京ダイヤビルディング 5 号館 10 階
URL kw.maruzen.co.jp Email: marketing@maruzen.co.jp

大人も知らないみのまわりの謎大全

2025:3./ 301p
978-4-478-11767-5
¥1,650〔税込〕

ネルノダイスキ 著
ダイヤモンド社
日本の「ふつうの街」にやってきた宇宙人のマチオとシラベは、住宅街や商店街、河原、駅前でさまざまな謎に遭遇。その正体とは…? 街中でよく見るものの名前や機能などをまんがで詳しく解説する。

産経新聞 2025/07/06

その本はまだルリユールされていない

2025:3./ 236p
978-4-582-83982-1
¥1,870〔税込〕

坂本　葵 著
平凡社
小学校の図書館司書・まふみが住むリーブル荘には、世界的な製本家である綺堂瀧子親方とその孫で天才製本家の由良子が暮らしていた。本が好きなまふみは手製本の美しさに魅せられていき…。本好きに贈る心温まる物語。

産経新聞 2025/07/06

ウクライナ戦争と外交～外交官が見た軍事大国の侵略と小国の戦略～

2025:5./ 223p
978-4-7887-2017-6
¥2,200〔税込〕

松田邦紀 著
時事通信出版局
2022 年 2 月から始まった、ロシアによるウクライナへの全面的侵攻。抵抗を続けるウクライナは、この厳しく苦しい状況をどう切り抜けてきたか。戦時下のウクライナに駐在した全権大使が、戦争と外交の舞台裏を明かす。

産経新聞 2025/07/06

ティータイム

2025:6./ 285p
978-4-08-770004-6
¥2,200〔税込〕

石井 遊佳 著
集英社
やたら大人びた兄妹、インドから脱出できない日本人、電車の網ダナの上で生活する女性、恐ろしいサンタクロース…。奇妙さに吸い込まれてしまう、全 4 篇の短編集。『すばる』掲載を加筆・修正。

産経新聞 2025/07/13

恐竜学

2025:4./ 512p
978-4-13-060260-0
¥6,380〔税込〕

小林　快次 編
東京大学出版会
恐竜の分類、進化、生理、生態、そして日本の恐竜について、気鋭の研究者たちが詳述した、初めての日本オリジナルの恐竜専門書。「進化と歴史」「古生理学と古生態学」「日本の恐竜」の 3 部構成。

産経新聞 2025/07/13

MARUZEN-YUSHODO

極北の海獣

イーダ・トゥルペイネン 著

河出書房新社

18 世紀ロシア、19 世紀アラスカ、現代フィンランド…。人間の手で絶滅させた海獣ステラーカイギュウを巡る、3 世紀にわたる冒険譚。海獣の存在を縦糸に、海獣に様々な形でかかわった人々の思いを横糸に、壮大な物語を紡ぐ。

産経新聞 2025/07/13

2025:5./ 266p
978-4-309-20924-1
¥2,970〔税込〕

大阪弁の深み～その独特の魅力を味わう～(PHP 新書　1429)

札埜 和男 著

ＰＨＰ研究所

他人を自分のペースに上手く巻き込むことができる大阪弁。そんな大阪弁の機能や、老舗遊園地を復活させた大阪弁戦略、優美な大阪ことばなどを取り上げ、大阪弁の魅力や独特の温かみ、歴史に迫る。

産経新聞 2025/07/13

2025:4./ 225p
978-4-569-85909-5
¥1,155〔税込〕

無数を振り切っていけ～歌集～

馬場めぐみ 著

短歌研究社

ひとつにはなりえなかった残骸を蹴飛ばす側になってしまいたい 身を投げる無数の窓を振り切って生き延びて今晴れた公園 2011～2024 年の短歌 321 首を収録した第 1 歌集。

産経新聞 2025/07/13

2025:6./ 155p
978-4-86272-797-8
¥2,420〔税込〕

去年、本能寺で～The virtual city of Nobunaga～

円城 塔 著

新潮社

この本能寺、なんか変。信長は転生し秀吉を叱り、道三は三人に分裂? アイドル善鸞は神曲を引っ提げ、ツアーを敢行し…。表題作など、奇想迸る歴史×SF 全 11 編を収録。『新潮』掲載をまとめて単行本化。

産経新聞 2025/07/20

2025:5./ 308p
978-4-10-331163-8
¥2,090〔税込〕

残光そこにありて

佐藤雫 著

中央公論新社

聡明にして厳格、されど決して優しさを失わぬ幕臣、小栗忠順。幕末動乱期、国の存亡に際し誰もが保身を考える中、彼だけは 100 年先の人々のことを想っていた-。歴史小説の次世代を担う俊英が、謎多き幕臣の生涯に迫る。

産経新聞 2025/07/20

2025:6./ 300p
978-4-12-005922-3
¥2,310〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

最後の芸人の女房～人間国宝・一龍齋貞水を支えたおかみさん一代記～

髙部 雨市 著
河出書房新社
職を転々とするうち、のちに講談師初の人間国宝となる一龍齋貞水と出会い、結婚したおゆきさん。古今亭志ん生、立川談志ら名人たちに可愛がられ、自宅に「酒席太郎」を開いて切り盛りし…。昭和最後の「芸人の女房」一代記。

産経新聞 2025/07/20

2025:5./ 199p
978-4-309-03966-4
¥2,420〔税込〕

いのちをまもる図鑑～最強のピンチ脱出マニュアル～

滝乃みわこ 著
ダイヤモンド社
ハチに襲われた! クマに遭遇した! 目の前で人がおぼれている! アメがのどにつまった! 不審者がついてくる! 日常で遭遇する可能性のある 76 の危険と、その対処法を、楽しいイラストとともに紹介する。

産経新聞 2025/07/20

2024:7./ 262p
978-4-478-11938-9
¥1,485〔税込〕

月は誰のもの?～南極、海洋、アフリカの前例に学ぶ～

A.C. グレイリング 著
柏書房
軍事的にも経済的にも注目の的である「宇宙開発」。宇宙活動を平和的に管理することは可能か? 哲学者が複雑な歴史と実際の条約を丁寧にひもときながら、「人類の共同の利益」を守るための議論の土台を考察する。

産経新聞 2025/07/20

2025:5./ 231p
978-4-7601-5629-0
¥2,530〔税込〕

出版という仕事(ちくまプリマー新書　497)

三島 邦弘 著
筑摩書房
編集であれ、営業であれ、「おもしろい」を日々扱う。出版とはそういう仕事-。著者と読者をつなぎ続けて四半世紀。「一冊入魂」の出版社代表が、「仕事としての出版」の現実とこれからを語る。

産経新聞 2025/07/20、読売新聞 2025/07/20

2025:7./ 216p
978-4-480-68528-5
¥990〔税込〕

動物たちの江戸時代

井奥 成彦 編
慶應義塾大学出版会
江戸時代、人と動物たちはどのような関係であったのか。「食べられる動物」から愛玩動物へ変化した犬など、西洋文化が流入する以前の日本人と動物たちとのかかわりを古文書から読み解く。慶應義塾史展示館企画展を基に書籍化。

産経新聞 2025/07/20、読売新聞 2025/07/20

2025:4./ 274p
978-4-7664-3028-8
¥2,640〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

グローバル格差を生きる人びと～「国際協力」のディストピア～(岩波新書 新赤版 2070)

友松 夕香 著
岩波書店
SNS や衛星放送で目にする豊かな暮らしを羨望し、先進国との疑念を抱くようになったアフリカ諸国の人びと。長年のフィールドワークをもとに人びとの目線で「国際協力」の神話を解体し、新たな共存の道を探る。

産経新聞 2025/07/27

2025:6./ 238p
978-4-00-432070-8
¥1,034〔税込〕

「孫子の兵法」思考術～大混迷時代のインテリジェンス～

佐藤 優 著
新潮社
疫病と戦争が復活した現代に、再読すべきは古代中国の兵法書「孫子」。危機を生き延びるために、「戦わずして勝つ」極意を伝える。『週刊新潮』連載を加筆し書籍化。

産経新聞 2025/07/27

2025:5./ 264p
978-4-10-475219-5
¥2,200〔税込〕

風に向かって

クリスティン・ハナ 著
早川書房
1930 年代、テキサス。愛を知らずに育ち、温かな家庭を夢見たエルサは、それを手に入れた途端、恐慌と砂嵐に奪われる。幾多の逆風に、彼女は…。アメリカ史上最悪の災害を生き抜いた女性を描いた希望の物語。

産経新聞 2025/07/27

2025:6./ 546p
978-4-15-210408-3
¥3,850〔税込〕

バッドフレンド・ライク・ミー

井上 先斗 著
文藝春秋
姫に飛ばれ借金を抱える元ホスト・有馬は、謎の男が仕掛ける犯罪計画で一発逆転を狙い…。前代未聞の多重犯罪劇が、いま、幕を開ける! 東京の街を駆け抜ける“現代版アラジン”。

産経新聞 2025/07/27

2025:6./ 219p
978-4-16-391990-4
¥1,650〔税込〕

カウンターエリート(文春新書　1492)

石田 健 著
文藝春秋
政府やメディアなどを既得権益化したエリートとして批判するカウンターエリートが支持を集め、世界中で地殻変動が始まっている。シリコンバレーで生まれた彼らの思想を手がかりに、その背景や論理、これから起こる変化を解説。

産経新聞 2025/07/27

2025:4./ 287p
978-4-16-661492-9
¥1,188〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

鯨肉料理

松本青山 著
農山漁村文化協会
縄文の昔から、食べるために鯨を捕ってきた日本人。たたき、なめろう、ムニエル、ショウガ焼き、竜田揚げ、鯨汁…。鯨肉の本当においしい食べ方・調理法を紹介する。

産経新聞 2025/07/27

2025:6./ 143p
978-4-540-25110-8
¥3,960〔税込〕

父と娘ときどき母の認知症日記～気持ちを伝え合う長谷川和夫最期の日々～

南髙まり 著
中央法規出版
「父と娘の認知症日記」の続編。自身も認知症になった認知症専門医の父、ユーモアと笑顔で夫の暮らしを支え続けた母の 2020 年以降のエピソードや、認知症の人と絆を育むヒントなどを綴る。

産経新聞 2025/07/27

2025:6./ 175p
978-4-8243-0262-5
¥1,540〔税込〕

長くつ下のピッピ　新版(岩波少年文庫　14)

リンドグレーン，A.（アストリッド） 著
岩波書店
世界一強い女の子ピッピのとびきりゆかいな物語。となりの家に住むトミーとアンニカは、ごたごた荘でサルと一緒に自由気ままに暮らしているピッピがうらやましくてなりません。90 年刊の新版。

朝日新聞 2025/07/05

2000:6./ 239p
978-4-00-114014-9
¥748〔税込〕

哲夫の春休み<上>(岩波少年文庫　231)

斎藤 惇夫 著
岩波書店
中学校入学目前に、父の故郷、長岡にひとり旅をすることになった哲夫。行きの列車の中から次々と不思議なことが起こり…。早春の長岡を舞台に少年の心の成長を描いたタイム・ファンタジー。

朝日新聞 2025/07/05

2016:3./ 218p
978-4-00-114231-0
¥704〔税込〕

哲夫の春休み<下>(岩波少年文庫　232)

斎藤 惇夫 著
岩波書店
哲夫は同い年の女の子みどりとともに長岡の町をめぐる。ゆかりある人びとや不思議な光景に導かれながら、しだいにふたりは家族の過去と向き合うことになる。早春の長岡を舞台に少年の心の成長を描いたタイム・ファンタジー。

朝日新聞 2025/07/05

2016:3./ 265p
978-4-00-114232-7
¥770〔税込〕

雪国　改版(岩波文庫　緑 81-3)

川端 康成 著
岩波書店
島村は半年ぶりに雪深い温泉町を訪ねる－人の世の哀しさと美しさを描いて日本近代小説屈指の名作に数えられる代表作。

朝日新聞 2025/07/05

2003:3./ 206p
978-4-00-310813-0
¥594〔税込〕

蔵<上>(角川文庫)

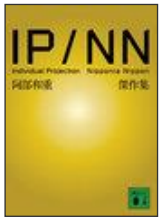
宮尾　登美子 著
角川書店
朝日新聞 2025/07/05

1998:1./ 410p

蔵<下>(角川文庫)

宮尾　登美子 著
角川書店
朝日新聞 2025/07/05

1998:1./ 395p
978-4-04-171804-9
¥704〔税込〕



IP/NN～阿部和重傑作集～(講談社文庫　あ 86-5)

阿部 和重 著
講談社
時代を小気味良く射抜いた峻烈なマスターピース、『インディヴィジュアル・プロジェクション』と『ニッポニアニッポン』。過激で真摯な言葉が吼えるように奏でるストーリーは、今なお新しく、その奇妙で暗示的な読後感は、当代無二のものがある。

朝日新聞 2025/07/05

2011:7./ 384p
978-4-06-277040-8
¥770〔税込〕

会田誠のスクラップブック

会田 誠 著
講談社
混迷の天才、21 世紀日本の映し鏡-。現代美術家・会田誠の 2000 年以降の活動をまとめた作品集。図版総数 750 点以上、自作解説 6 万 5000 字超を掲載。ツイート(現 X)880 回分も収録。

朝日新聞 2025/07/05

2025:6./ 239p
978-4-06-539664-3
¥6,930〔税込〕

小川未明童話集　改版(新潮文庫)

小川　未明 著
新潮社
人間はこの世の中で一番やさしいものだ－ひとり寂しく生きた人魚はそれを聞いて、自分の娘を人間界に産み落とします。夢と希望を託して。

朝日新聞 2025/07/05

2003:5./ 257p
978-4-10-110001-2
¥506〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

雪夢往来

木内 昇 著
新潮社
ふるさと越後が江戸で知られていないと悟った鈴木牧之。彼の書いた「雪話」は山東京伝の目に留まり、出版へと動き始めるが…。名著「北越雪譜」が世に出るまでの風雪と虚々実々の江戸出版界を描く。『小説新潮』掲載を書籍化。

朝日新聞 2025/07/05

2024:12./ 397p
978-4-10-350957-8
¥2,200〔税込〕

スマホの中の子どもたち～デジタル社会で生き抜くために大人ができること～

エミリー・ワインスタイン、キャリー・ジェームズ 著
日経ＢＰ社
大切なのは「スクリーンタイムの抑制」ではなく「主体的にコントロールする力」。子どもたちがデジタル技術を主体的に使いこなす力を身につけるために、大人ができることを具体的に解説する。

朝日新聞 2025/07/05

2025:5./ 294p
978-4-296-07117-3
¥2,970〔税込〕

札幌誕生

門井 慶喜 著
河出書房新社
幕末から大正にかけて、未知の土地・北海道にわたり、近代都市・札幌を作った、島義勇、内村鑑三、バチラー八重子、有島武郎、岡崎文吉。それぞれの熱き開拓の物語。『北海道新聞』他掲載を加筆修正。

朝日新聞 2025/07/05

2025:4./ 557p
978-4-309-03948-0
¥2,475〔税込〕

世阿弥最後の花(河出文庫　ふ 4-10)

藤沢 周 著
河出書房新社
永享 6 年、幽玄の美で室町の世を瞠目させた 72 歳の世阿弥元清が、咎なくして佐渡へと流された。彼の地でどう生き、何を見つけたのか。最晩年に到達した至高の舞と、秘められた「まことの花」の謎と真実に迫る物語。

朝日新聞 2025/07/05

2024:8./ 443p
978-4-309-42129-2
¥990〔税込〕

ののはな語らず(熱帯 COMICS)

紙島育 著
光文社
みずみずしいタッチで紡がれる〝半径 1000 歩〟の物語。新鋭・紙島育による初単行本。

朝日新聞 2025/07/05

2025:6./ 197p
978-4-334-10683-6
¥880〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

両膝を怪我したわたしの聖女

アンドレア・アブレウ 著
国書刊行会
スペイン・カナリア諸島に暮らす、10 歳の「わたし」とイソラ。「わたし」にとって、イソラは聖女のように絶対的な存在だった。ふたりは夏休みの退屈しのぎのため、不潔にして乱暴、猥雑で危うい遊びにつぎつぎ手を染め…。

朝日新聞 2025/07/05

2025:5./ 205p
978-4-336-07771-4
¥3,190〔税込〕

スピノザ～「変性の哲学者」の思想世界～(筑摩選書 0304)

加藤 節 著
筑摩書房
人間像と思想像において、際立つほど多面的に受け止められてきたスピノザ。従来のイメージにとらわれることなく、スピノザにおける倫理学と政治学、そして聖書批判の内的連関を見定め、その思想を統一的に描き出す。

朝日新聞 2025/07/05

2025:5./ 342p
978-4-480-01822-9
¥2,090〔税込〕

アラン～戦争と幸福の哲学～(ちくま新書 1862)

田中 祐理子 著
筑摩書房
名著「幸福論」を通じて広く親しまれてきた哲学者アラン。2 度の世界大戦を生きたその生涯と思想の断片をつなぎ、「考えるとは否と言うこと」というアランの言葉に耳を傾ける評伝。

朝日新聞 2025/07/05

2025:6./ 245p
978-4-480-07688-5
¥1,012〔税込〕

メメント・ヴィータ

藤原新也 著
双葉社
死の満ちあふれた崩壊時代を生き抜くために必要なのは「生を想え」という意識である-。「メメント・モリ」の発表から 40 年余を経て、あらゆるメディアで表現し深化を続ける著者が現在の世界を語る。

朝日新聞 2025/07/05

2025:5./ 436p
978-4-575-31971-2
¥2,750〔税込〕

やりたいことは全部やりなさい～最後に後悔しない 25 のヒント～(SB 新書 689)

森永卓郎 著
ＳＢクリエイティブ
人生において最も大事なのは「やりたいことを全部やり、完全燃焼する」こと-。「資本の奴隷になってはいけない」「常識は正解じゃない」など、人生をより豊かにするヒントを、自身の人生哲学に基づいて伝える。

朝日新聞 2025/07/05

2025:4./ 219p
978-4-8156-3303-5
¥1,045〔税込〕

四天王寺新縁起

一本 崇之 著
東方出版
1430 年という長い歴史の中で、幾多の罹災を経てもなお人々の信仰をあつめ、「生きた寺院」として存続してきた日本最古の官寺、四天王寺。その歴史を紐解き、信仰の本質を読み解く。

朝日新聞 2025/07/05

2025:4./ 279p
978-4-86249-467-2
¥2,200〔税込〕

となりのとらんす少女ちゃん(PREMIER COMICS 100)

とら少 著
在野社
虹色に光ることもなく、ピンクとブルーに別れることもない-。トランスジェンダー当事者が、現代の「トランスガール」の肖像を描く。SNS 掲載をリメイクした 3 篇に書き下ろし 1 篇を加えて書籍化。

朝日新聞 2025/07/05

2025:5./ 183p
978-4-9913920-0-9
¥1,815〔税込〕

サイレントシンガー

小川 洋子 著
文藝春秋
沈黙を愛し、10 本の指を駆使した指言葉でつつましく会話をする人々の暮らす「アカシアの野辺」で育ったリリカ。やがてリリカは歌うことを覚え、その歌声の力が、さまざまな人と引き合わせ…。遙かな時間について綴った物語。

朝日新聞 2025/07/05、読売新聞 2025/07/06、産経新聞 2025/07/13

2025:6./ 290p
978-4-16-391991-1
¥1,980〔税込〕

ロシア政治～プーチン権威主義体制の抑圧と懐柔～(中公新書　2854)

鳥飼 将雅 著
中央公論新社
プーチンはどのようにして絶大な権力を手に入れたのか? 権力維持のために制度をどのように発展させてきたのか? ソ連崩壊からの歴史を繙き、統治機構、市民社会など 6 つの観点から権威主義体制の内幕に迫る。

朝日新聞 2025/07/05、読売新聞 2025/07/27

2025:5./ 336p
978-4-12-102854-9
¥1,375〔税込〕

自由<上>

アンゲラ・メルケル 著
KADOKAWA
16 年にわたりドイツ政府の首長として責任を担い、その行動と態度で、ドイツ、ヨーロッパ、世界の政治をリードしてきたアンゲラ・メルケル。旧東ドイツと再統一されたドイツ、ふたつの国家における自身の半生を振り返る。

朝日新聞 2025/07/05、日本経済新聞 2025/07/19

2025:5./ 416p
978-4-04-113632-4
¥2,750〔税込〕

自由<下>

アンゲラ・メルケル 著
KADOKAWA
16 年にわたりドイツ政府の首長として責任を担い、その行動と態度で、ドイツ、ヨーロッパ、世界の政治をリードしてきたアンゲラ・メルケル。旧東ドイツと再統一されたドイツ、ふたつの国家における自身の半生を振り返る。

朝日新聞 2025/07/05、日本経済新聞 2025/07/19

2025:5./ 408p
978-4-04-113633-1
¥2,750〔税込〕

戦争童話集　完全版(中公文庫　の 3-16)

野坂昭如 著
中央公論新社
昭和 20 年、8 月 15 日-すべて同じ書き出しで始まる、忘れてはならない物語。空襲下の母子を描く「凧になったお母さん」など鎮魂の祈りをこめて綴られた「戦争童話集」12 篇に、沖縄戦の悲劇を伝える 2 篇を増補した完全版。

朝日新聞 2025/07/05、毎日新聞 2025/07/26

2025:4./ 254p
978-4-12-207646-4
¥880〔税込〕

絵師ムネチカ<1>(アクションコミックス)

さそうあきら 著
双葉社
ただただひたすらに絵を描き続ける高校生、ムネチカ。その絵は人の心を捉える。頬を染める。魅せられる。そして蝕まれる。ムネチカが描き尽くす時、世界は－!? 手塚治虫文化賞受賞作家が贈る感動のストーリー、待望の第 1 巻。

朝日新聞 2025/07/05、毎日新聞 2025/07/26

2025:6./ 168p
978-4-575-86098-6
¥770〔税込〕

私立探偵マニー・ムーン(新潮文庫　テ-27-1)

リチャード・デミング 著
新潮社
戦地帰りのタフガイ、私立探偵のマニー・ムーンは、自らの義足までも武器に大立ち回りの末、関係者を集めて謎解きを披露し…。アンチヒーローの活躍を描いた全 7 作品を収録する。

朝日新聞 2025/07/12

2025:7./ 797p
978-4-10-240881-0
¥1,320〔税込〕

乱歩と千畝～RAMPO と SEMPO～

青柳 碧人 著
新潮社
巨匠・江戸川乱歩と、ユダヤ人を救った外交官・杉原千畝。まだ何者でもなかったふたりは希望と不安を抱え、浅草の猥雑な路地を歩き語り合い…。斬新な発想で描く波瀾万丈の物語。『yomyom』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/07/12

2025:5./ 378p
978-4-10-356271-9

MARUZEN-YUSHODO

踊りつかれて

塩田 武士 著

文藝春秋

不倫を報じられて苛烈な誹謗中傷を受け、自ら死を選んだお笑い芸人。一方、伝説の歌姫は写真週刊誌のデタラメに踊らされ、人前から姿を消した。彼らが目にした絶望とは-。『週刊文春』連載を改稿し単行本化。

朝日新聞 2025/07/12

2025:5./ 471p
978-4-16-391980-5
¥2,420〔税込〕

魔女裁判の弁護人(宝島社文庫　このミス大賞 C き-12-1)

君野 新汰 著

宝島社

16 世紀の神聖ローマ帝国。法学者ローゼンは、ある村で魔女裁判に遭遇。告発された少女アンを審問し、その無罪を信じたローゼンは、事件の捜査を始めるが…。法学者の青年が論理的に魔女裁判に挑むリーガルミステリー。

朝日新聞 2025/07/12

2025:6./ 373p
978-4-299-06338-0
¥899〔税込〕

コミュニティ・アセットによる地域再生～空き家や遊休地の活用術～

田島則行 著

鹿島出版会

空き地や空き家はコミュニティのための資産。これまでの日本と海外のコミュニティ・アセットの流れを概観し、さらに発展しつつある国内各地の実情を紹介。コミュニティ・アセットを実現してきた人びとの巧みな方法論を探る。

朝日新聞 2025/07/12

2023:9./ 207p
978-4-306-07365-4
¥2,970〔税込〕

告白怪談そこにいる。

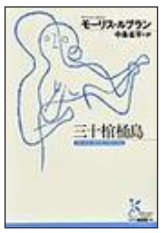
川奈 まり子 著

河出書房新社

きょうも全国各地から、そして時を超えて、さまざまな「怪談」が、語り部・川奈まり子の元に吸い寄せられるように集まってくる。そこにいる<もの>たちの世世界へ誘う、「彼女の箱」「和裁寮」など全 32 話を収録。

朝日新聞 2025/07/12

2025:5./ 206p
978-4-309-03967-1
¥1,793〔税込〕



三十棺桶島(光文社古典新訳文庫　KA ル 4-1)

モーリス・ルブラン 著

光文社

偶然見た映画の一場面で、見知らぬ土地の小屋に自分のサインが刻まれていることを知ったヴェロニク。その小屋を訪ねてみると中には男性の死体が…。不吉な伝説と企みに満ちた島を舞台とした、怪盗紳士ルパンシリーズの傑作。

朝日新聞 2025/07/12

2025:5./ 597p
978-4-334-10647-8
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

町内会～コミュニティからみる日本近代～(ちくま新書　1797)

玉野 和志 著

筑摩書房

任意参加であるはずなのに、全戸加入が原則とされてきた住民組織「町内会」は、いつどのようにして生まれたのか。明治地方自治制、大衆民主化の時代から戦中・戦後まで、コミュニティの歴史を繙き、日本再生の手がかりを探る。

朝日新聞 2025/07/12

2024:6./ 186p
978-4-480-07629-8
¥924〔税込〕

民主主義～終わりなき包摂のゆくえ～

ナオミ・ザック 著

白水社

ポピュリズムの席捲や社会の分断、世界の権威主義化が進むなか、民主主義はどこへ行くのか。古代から中世・ルネサンス、進歩主義、20 世紀後半の社会運動、現在進行中の出来事まで、哲学的・歴史的な視点で民主主義を考える。

朝日新聞 2025/07/12

2025:4./ 236p
978-4-560-09166-1
¥2,640〔税込〕

文化的コモンズ～文化施設がつくる交響圏～

佐々木 秀彦 著

みすず書房

地域の共同体の誰もが自由に参加できる文化的な営みの総体を表す「文化的コモンズ」。博物館、図書館、公民館などの文化施設と福祉施設の成り立ちや変遷を辿り、文化施設を拠点とした文化的コモンズを実現する方策を探究する。

朝日新聞 2025/07/12

2024:3./ 664p
978-4-622-09674-0
¥4,180〔税込〕

コミュニティの社会学

祐成 保志、武田 俊輔 編

有斐閣

人は「コミュニティ」に何を求めているのか。気鋭の社会学者たちが、コミュニティの多義性の捉え方、概念と理念の歴史、生成と再生産の動態をさまざまな視点から明らかにする。

朝日新聞 2025/07/12

2023:12./ 276p
978-4-641-17494-8
¥3,190〔税込〕

まちを変える都市型農園～コミュニティを育む空き地活用～

新保 奈穂美 著

学芸出版社

耕作放棄・低利用の都市農地、商業ビルの屋上…クリエイティブな農でまちのスキマを使いこなす! 国内外の先進地域の事例や実践者への取材を交え、最新の知見や行政・市民・民間事業者のノウハウを紹介する。

朝日新聞 2025/07/12

2022:9./ 207p
978-4-7615-2821-8
¥2,640〔税込〕

銭湯から広げるまちづくり～小杉湯に学ぶ、場と人のつなぎ方～

加藤 優一 著

学芸出版社

銭湯の常連たちがつくったシェアスペース「小杉湯となり」。世代をこえた運営から、エリアの空き家を活用した拠点づくりまで、半径 500m 圏内の地域資源を繋ぐ空間・組織・事業づくりのヒントを探る。

朝日新聞 2025/07/12

2023:7./ 219p
978-4-7615-2858-4
¥2,200〔税込〕

パブリック・ヒストリーの実践～オルタナティブで多声的な歴史を紡ぐ～(慶應義塾大学東アジア研究所叢書)

笠井 賢紀、田島 英一 著

慶應義塾大学出版会

学問が歴史を占有せず、人びとと共に人びとの歴史を作り上げていく営みである「パブリック・ヒストリー」。その理論的な枠組みを解説し、さまざまな地域・時代にわたる研究実践、方法論そのものを再検討する論文を収載する。

朝日新聞 2025/07/12

2025:1./ 296p
978-4-7664-3005-9
¥4,950〔税込〕

友達の数は何人?～ダンバー数とつながりの進化心理学～

ロビン・ダンバー 著

青土社

浮気好きな種の脳は小さい? 集団サイズは新皮質の大きさに比例する? 家族といっしょの方が健康? 人間の認知能力や社会性、言語、文化、性的魅力など幅広い話題について、進化の視点から考察する。

朝日新聞 2025/07/12

2025:3./ 293p
978-4-7917-7699-3
¥2,860〔税込〕

大阪・関西万博ぴあ(ぴあ MOOK)

ぴあ

2025 年 4 月から開催される大阪・関西万博。さまざまなパビリオンの見どころや、イベント、グルメなどを紹介する。あわせて楽しみたい大阪グルメ&レジャースポットも掲載。会場 MAP 付き。データ:2025 年 2 月現在。

朝日新聞 2025/07/12

2025:3./ 128p
978-4-8356-4533-9
¥1,200〔税込〕

こうの史代 鳥がとび、ウサギもはねて、花ゆれて、走ってこけて、長い道のり

こうの史代、福永信、森下達 著

青幻舎

ギャグ漫画からシリアスなストーリー漫画まで、たくさんのジャンルの漫画を描く漫画家・こうの史代。原画やロングインタビュー、高校時代の漫画、詳細作品解説、自費出版本「すずしろ帖」などを収録する。展覧会の図録。

朝日新聞 2025/07/12

2025:5./ 312p
978-4-86152-995-5
¥3,520〔税込〕

森を焼く人～自然と人間をつなぎ直す「再生の火」を探して～

M・R・オコナー 著
英治出版
なぜ山火事は巨大化したのか。その原因は、気候変動だけではなかった-。気鋭のジャーナリストが、破滅的災害の最前線に自ら飛び込み、先住民や森林火災消防士、研究者らとともに忘れられた「森と火と人」の関係を解き明かす。

朝日新聞 2025/07/12

2025:5./ 477p
978-4-86276-357-0
¥2,970〔税込〕

天職が見つかる空想教室

植松 努 著
サンクチュアリ・パブリッシング（サンクチュアリ出版）
ぼくたちは知恵と工夫で、世界を救うために生まれてきた-。小さな町工場から自家製ロケットを打ち上げ、宇宙開発の常識を逆転させた空想経営者が“どんな夢も実現させる方法”を語る。

朝日新聞 2025/07/13

2024:10./ 230p
978-4-8014-0147-1
¥880〔税込〕

世界の○×図鑑～これってホント?～

ウソホント調査隊 編
文響社
○か×か、どちらが正しそうか、考えてみよう! 「おならに火をつけると爆発する?」「海に雷が落ちたら魚はしびれてしまう?」…。俗説や迷信など「ウソ?ホント?」と悩むようなナゾ 60 個の真相を楽しく解き明かす。

朝日新聞 2025/07/13

2024:5./ 151p
978-4-86651-775-9
¥1,595〔税込〕

電柱鳥類学～スズメはどこに止まってる?～(岩波科学ライブラリー　298)

三上 修 著
岩波書店
電柱や電線で鳥は何をしている? なぜ感電しない? 電柱・電線の鳥に注目したら見えてきた、その知られざる生態、電力会社と鳥たちの終わりなき知恵比べ…。鳥と電柱、そして人のささやかなつながりを、第一人者が描き出す。

朝日新聞 2025/07/19

2020:11./ 126p
978-4-00-029698-4
¥1,430〔税込〕

トムは真夜中の庭で　新版(岩波少年文庫　41)

ピアス，A. P.（アン・フィリパ） 著
岩波書店
友だちもなく退屈しきっていたトムは、真夜中に古時計が 13 も時を打つのを聞き、昼間はなかったはずの庭園に誘いだされて、ヴィクトリア朝時代の不思議な少女と友だちになり…。75 年刊の新版。

朝日新聞 2025/07/19

2000:6./ 358p
978-4-00-114041-5
¥1,012〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

永遠平和のために(岩波文庫　青 625-9)

カント 著
岩波書店
カントは、常備軍の全廃・諸国家の民主化・国際連合の創設など具体的提起を行ない、さらに人類の最高善＝永遠平和の実現が決して空論にとどまらぬ根拠を明らかにして、人間ひとりひとりに平和への努力を厳粛に義務づける。

朝日新聞 2025/07/19

1985:1./ 146p
978-4-00-336259-4
¥693〔税込〕

国民の天皇～戦後日本の民主主義と天皇制～(岩波現代文庫　学術 214)

ケネス・ルオフ 著
岩波書店
昭和天皇から現天皇へ、皇室の行動様式はどう変容したか。現天皇即位後の 20 年、象徴としての天皇制はいかに推移して国民の支持を得たのか。国民の皇室に対するまなざしをどう見るか。戦後天皇制を考察した労作。

朝日新聞 2025/07/19

2009:4./ 538p
978-4-00-600214-5
¥1,650〔税込〕

エクソフォニー～母語の外へ出る旅～(岩波現代文庫　文芸 211)

多和田 葉子 著
岩波書店
母語の外に出るという言語の越境で、何が見えてくるのか。長年にわたってドイツ語と日本語で創作活動を続けてきた著者が、世界各国を旅しながら、書きことばの表現を点検し、自己の立脚点を問うエッセー。

朝日新聞 2025/07/19

2012:10./ 230p
978-4-00-602211-2
¥1,166〔税込〕

戦争は女の顔をしていない(岩波現代文庫　社会 295)

スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ 著
岩波書店
ソ連では第二次世界大戦で百万人をこえる女性が従軍し、看護婦や軍医としてのみならず兵士として武器を手にして戦った。五百人以上の従軍女性から聞き取りをおこない戦争の真実を明らかにした、ノーベル文学賞作家の主著。

朝日新聞 2025/07/19

2016:2./ 506p
978-4-00-603295-1
¥1,650〔税込〕

成りあがり～矢沢永吉激論集～(角川文庫)

矢沢　永吉／角川書店装丁室 著
角川書店
おれは音楽をやる、スターになる!広島から夜汽車に乗って上京した少年。くやしさも、みじめさも、すべて吐き出し、泣いている、笑っている、叫んでいる。この一冊は矢沢永吉の歌!

朝日新聞 2025/07/19

2004:4./ 301p
978-4-04-148303-9
¥858〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

遠い太鼓(講談社文庫)

村上 春樹 著

講談社

ある朝目が覚めて、ふと耳を澄ませると、何処か遠くから太鼓の音が聞こえてきたのだ。ずっと遠くの場所から、ずっと遠くの時間から、その太鼓の音は響いてきた。－その音にさそわれて僕はギリシャ・イタリアへ長い旅に出る。

朝日新聞 2025/07/19

1993:4./ 570p
978-4-06-185382-9
¥990〔税込〕

苦海浄土～わが水俣病～　新装版(講談社文庫)

石牟礼 道子 著

講談社

本作は、世に出て三十数年を経たいまなお、極限状況にあっても輝きを失わない人間の尊厳を訴えてやまない。末永く読み継がれるべき“いのちの文学”の新装版。

朝日新聞 2025/07/19

2004:7./ 416p
978-4-06-274815-5
¥836〔税込〕

地球にちりばめられて(講談社文庫 た 74-5)

多和田 葉子 著

講談社

留学中に故郷の島国が消滅してしまった女性 Hiruko は、ヨーロッパ大陸で生き抜くため、独自の言語<パンスカ>をつくり出す。彼女は言語学を研究する青年とともに、自分と同じ母語を話す者を探す旅に出て…。

朝日新聞 2025/07/19

2021:9./ 349p
978-4-06-523815-8
¥792〔税込〕

「うた」で読む日本のすごい古典～話はたまにとびますが～

安田 登 著

講談社

物語の中の和歌は、ミュージカルにおける歌のような存在。何度か読み、そしてうたい、和歌が自分の中に定着したなと思ったらはじめて本文を読む。和歌と謡曲、名作古典を自由に往還してガイドする。『短歌研究』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/07/19

2024:10./ 309p
978-4-06-537070-4
¥1,980〔税込〕

カメオ

松永Ｋ三蔵 著

講談社

新倉庫建設の工程管理を任された高見。建築予定地の隣地に住む犬連れの男が何かと工事現場にクレームを入れ、勝手に朝礼にも参加するようになる。その男自前のヘルメットには「亀夫」と書かれていて…。『群像』掲載を書籍化。

朝日新聞 2025/07/19

2024:12./ 141p
978-4-06-537826-7
¥1,650〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

全東洋街道<上>(集英社文庫)

藤原 新也 著

集英社

東洋の魂を求めて放浪 400 日!チベットでは山寺にこもり、チェンマイでは売春宿に泊まる…。全アジア都市の聖・食・性を写し出す、毎日芸術賞受賞のオールカラー・人間ドキュメント。

朝日新聞 2025/07/19

1982:11./ 281p
978-4-08-750563-4
¥1,540〔税込〕

全東洋街道<下>(集英社文庫)

藤原 新也 著

集英社

東洋の魂を求めて放浪 400 日!チベットでは山寺にこもり、チェンマイでは売春宿に泊まる…。全アジア都市の聖・食・性を写し出す、毎日芸術賞受賞のオールカラー・人間ドキュメント。

朝日新聞 2025/07/19

1983:1./ 309p
978-4-08-750591-7
¥1,540〔税込〕

Blue

川野 芽生 著

集英社

割りあてられた「男」という性別から解放され、高校の演劇部で人魚姫役を演じきった真砂だったが…。社会規範によって揺さぶられる若きたましいを痛切に映しだす、トランスジェンダーの物語。『すばる』掲載を書籍化。

朝日新聞 2025/07/19

2024:1./ 139p
978-4-08-771866-9
¥1,650〔税込〕

日本国憲法 第 2 版(小学館アーカイヴス)

小学館 著

小学館

昭和 21 年 11 月に公布された憲法にふりがな(ルビ)を付け、現代かなづかいに改め、語句説明や自然などの写真を交えて読みやすくまとめた日本国憲法の本。大日本帝國憲法(旧憲法)、英訳日本国憲法も収録。

朝日新聞 2025/07/19

2013:6./ 127p
978-4-09-105439-5
¥990〔税込〕

消された外交官宮川舩夫(小学館新書　469)

斎藤 充功 著

小学館

日ソ停戦交渉で通訳を務めた外交官・宮川舩夫。だが戦後ソ連に拘束・収監され、獄死したことすら秘された。なぜソ連は真実を隠し続けたのか。その舞台裏を明らかにする。テキストデータをダウンロードできる QR コード付き。

朝日新聞 2025/07/19

2025:6./ 334p
978-4-09-825469-9
¥1,210〔税込〕

CHANGE THE WORLD<1>(マンガワンコミックス)

田川 とまた 著

小学館

演劇とはなんだろう?演じるって?自分のことすらよくわかってないのに、他の誰かの生を演じることなんてできるの?わからないから、演じる。わかりたいから、演じる。

朝日新聞 2025/07/19

2025:3./ 192p
978-4-09-853884-3
¥770〔税込〕

T・P ぼん<1>(ビッグコミックススペシャル)

藤子・F・ 不二雄 著

小学館

生涯を懸けて追求した「歴史」や「遺跡」への愛を、比類なきスケールの SF へと結実させた、藤子･F･不二雄渾身のライフワーク。新装決定版シリーズ、第 1 巻!

朝日新聞 2025/07/19

2024:5./ 287p
978-4-09-862845-2
¥1,210〔税込〕

新編　宮沢賢治詩集(新潮文庫)

宮沢 賢治 著

新潮社

朝日新聞 2025/07/19

1991:1./ 420p
978-4-10-109207-2
¥605〔税込〕

二つの祖国<第 1 巻>(新潮文庫)

山崎 豊子 著

新潮社

朝日新聞 2025/07/19

2009:9./ 471p
978-4-10-110445-4
¥825〔税込〕

残穢(新潮文庫　お-37-9)

小野 不由美 著

新潮社

畳を擦る音が聞こえ、いるはずのない赤ん坊の泣き声が…。この家はどこか可怪しい。何の変哲もないマンションで起きる怪奇現象を調べるうち、浮き上がってきた「土地」を巡るある因縁とは? 2016 年 1 月公開映画の原作。

朝日新聞 2025/07/19

2015:8./ 359p
978-4-10-124029-9
¥781〔税込〕

レベッカ<上>(新潮文庫)

デュ＝モーリア 著

新潮社

朝日新聞 2025/07/19

2008:2./ 439p
978-4-10-200203-2
¥880〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

レベッカ<下>(新潮文庫)

デュ＝モーリア 著

新潮社

朝日新聞 2025/07/19

2008:2./ 365p
978-4-10-200204-9
¥737〔税込〕

世界の果てまで行って喰う～地球三周の自転車旅～

石田 ゆうすけ 著

新潮社

世界一周では満足できぬ。自転車旅を続ける男を待ち受けていたのは天国メシと地獄メシ、心震える涙メシだった! 松茸の極楽浄土、恐怖の“銀シャリ”…。旅情と味覚をみずみずしい筆で綴る絶品世界旅行記。

朝日新聞 2025/07/19

2024:10./ 186p
978-4-10-355751-7
¥1,760〔税込〕

能十番～新しい能の読み方～

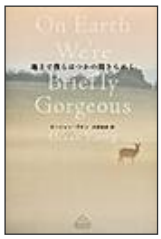
いとう せいこう／ジェイ・ルービン 著

新潮社

能とは、こんなに面白いものだったのか! 「高砂」などの精選 10 曲の解説、詞章、いとうせいこうの現代語訳、ジェイ・ルービンによる英訳を収録。柴田元幸との鼎談なども掲載。『新潮』連載を加筆修正、書下ろしを加える。

朝日新聞 2025/07/19

2024:12./ 252p
978-4-10-355911-5
¥3,685〔税込〕



地上で僕らはつかの間きらめく(CREST BOOKS)

オーシャン・ヴオン 著

新潮社

1990 年にアメリカにやって来たベトナム人の家族の息子は、文字が読めない母に手紙を書く。三代に亘る苦難の歳月、年上の少年への初めての恋、数々の喪失、人生との和解-。若手詩人による美しく切実な自伝的長篇。

朝日新聞 2025/07/19

2021:8./ 293p
978-4-10-590173-8
¥2,420〔税込〕

俺は 100 歳まで生きると決めた(新潮新書 1038)

加山 雄三 著

新潮社

新たな音楽活動に挑戦し「攻めに転じた」70 代、愛船の火災と病に見舞われた 80 代、未来を見据えた余生…。自身を育んだ茅ケ崎の海や、強い絆で結ばれた友たちに思いを馳せながら、永遠の若大将・加山雄三が語る幸福論。

朝日新聞 2025/07/19

2024:4./ 189p
978-4-10-611038-2
¥836〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

昭和歌舞伎 女方小説集(中公文庫　な 85-1)

中村哲郎 著

中央公論新社

歌舞伎において、女性の役あるいはそれを勤める役者を指す「女方」を題材にとった小説を集成。網野菊「おもかげ」、三島由紀夫「女方」、円地文子「双面」など全 5 編を収録。文庫オリジナル。

朝日新聞 2025/07/19

2025:6./ 280p
978-4-12-207666-2
¥1,100〔税込〕

蔦屋重三郎と浮世絵～「歌麿美人」の謎を解く～(NHK 出版新書　734)

松嶋 雅人 著

ＮＨＫ出版

江戸のメディア王・蔦屋重三郎。彼が歌麿に描かせた浮世絵「ポッピンを吹く娘」はなぜ名作と言われるのか。重三郎のビジネス上の足跡に沿って代表的作品から知られざる名画までを取り上げ、その歴史的意味やインパクトを解明。

朝日新聞 2025/07/19

2024:12./ 206p
978-4-14-088734-9
¥1,265〔税込〕

ヴェネツィアの宿(文春文庫)

須賀 敦子 著

文芸春秋

イタリア人の夫、日本にいる父と母、フランスで知り合ったドイツ人の友達、様々な出会いと人間の生き様を描く珠玉のエッセイ 12 篇

朝日新聞 2025/07/19

1998:8./ 295p
978-4-16-757702-5
¥726〔税込〕

日本発狂(秋田文庫)

手塚 治虫 著

秋田書店

朝日新聞 2025/07/19

1996:4./ 225p
978-4-253-17186-1
¥513〔税込〕

冷戦終結からウクライナ戦争へ-ドイツ統一、ソ連崩壊の原点から考える-

岡田　実 著

文芸社

冷戦終結後の NATO 東方拡大がなければ、ウクライナ戦争は起きなかった…。ドイツ統一に始まる冷戦終結を目撃したジャーナリストが、新たな国際秩序が生み出した危機的状況を分析する。

朝日新聞 2025/07/19

2024:10./ 411p
978-4-286-22101-4
¥1,650〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

日本人が移民だったころ

寺尾 紗穂 著
河出書房新社
日本はかつて国策として移民を推奨する「移民送り出し国」だった。沖縄からパラグアイまで開拓地をめぐり、戦争に翻弄された労働者たちの声を拾い集める、聞き書きルポルタージュ。

朝日新聞 2025/07/19

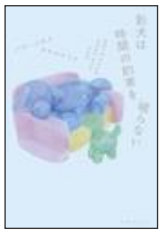
2023:7./ 193p
978-4-309-03122-4
¥1,980〔税込〕

雷と走る

千早 茜 著
河出書房新社
幼い頃海外で暮らしていたまどかは、番犬用の仔犬としてローデシアン・リッジバックの「虎」と出会った。唯一無二の相棒だったが、一家は帰国にあたり、犬を連れて行かない決断をして-。『文藝』掲載に加筆修正して単行本化。

朝日新聞 2025/07/19

2024:8./ 130p
978-4-309-03208-5
¥1,540〔税込〕



影犬は時間の約束を破らない

パク・ソルメ 著
河出書房新社
ソウル、釜山、沖縄、旭川。治療としての<冬眠>が普及した世界の、眠る者と見守る者。やがて犬たちが、人々を外へと導き…。未踏の文学を切り開く作家による、世界とはぐれた心を結び直す冬眠小説集。

朝日新聞 2025/07/19

2025:2./ 198p
978-4-309-20919-7
¥2,640〔税込〕

小松左京セレクション<1> 日本(河出文庫 こ 16-1)

東 浩紀 編
小松 左京 著
河出書房新社
小松左京生誕八十年記念/追悼出版。代表的短篇、長篇の抜粋、エッセイ、論文を自在に編集し、SF 作家であり思想家であった小松左京の新たな姿に迫る、画期的な傑作選。第一弾のテーマは「日本」。

朝日新聞 2025/07/19

2011:11./ 509p
978-4-309-41114-9
¥1,045〔税込〕

ハイファに戻って(河出文庫 カ 3-1)

ガッサーン・カナファーニー 著
河出書房新社
パレスチナ抵抗運動の中心で闘い、自動車爆弾によって夭折した作家がのこした名作群。20 年ぶりに再会した親子の中にパレスチナとイスラエルの苦悩を凝縮させた「ハイファに戻って」など 7 篇を収録。

朝日新聞 2025/07/19

2017:6./ 292p
978-4-309-46446-6
¥1,078〔税込〕

こびとが打ち上げた小さなボール(河出文庫　チ 8-1)

チョ・セヒ 著
河出書房新社
お父ちゃんをこびとなんて言った悪者は、みんな、殺してしまえばいいのよ-。70 年代ソウル。急速な都市開発を巡り、極限まで虐げられた者たちの千年の怒りが渦巻く祈りの物語。四半世紀にわたり韓国で読まれるロングセラー。

朝日新聞 2025/07/19

2023:7./ 443p
978-4-309-46784-9
¥1,430〔税込〕

創られた伝統(文化人類学叢書)

エリック・ホブズボーム、テレンス・レンジャー 著
紀伊國屋書店
朝日新聞 2025/07/19

1992:6./ 488p
978-4-314-00572-2
¥5,232〔税込〕

平和を破滅させた和平～中東問題の始まり〈1914-1922〉～<上>

デイヴィッド・フロムキン、椋田　直子、畑　長年 著
紀伊國屋書店
中東の終わりなき紛争はここから始まった。オスマン帝国の崩壊を見すえたヨーロッパ列強はいかなる青写真を描いたか。近代中東形成の全体像をあぶり出す、歴史ノンフィクション。

朝日新聞 2025/07/19

2004:8./ 405p
978-4-314-00966-9
¥4,180〔税込〕

寝ても覚めてもアザラシ救助隊

岡崎　雅子 著
実業之日本社
幼いころに出会ったぬいぐるみがきっかけで、あっという間にアザラシ沼へ。日本で唯一のアザラシ保護施設で働く飼育員が、保護活動とアザラシが抱えている問題などを綴る、アザラシ愛溢れる自然科学エッセイ。

朝日新聞 2025/07/19

2022:6./ 245p
978-4-408-65013-5
¥1,650〔税込〕

遊覧日記(ちくま文庫)

武田百合子、武田花 著
筑摩書房
行きたい所へ行きたい時に、つれづれに出かけてゆく。一人で。または二人で。あちらこちらを遊覧しながら綴ったエッセイ集。

朝日新聞 2025/07/19

1993:1./ 185p
978-4-480-02684-2
¥770〔税込〕

向う岸からの世界史～一つの四八年革命史論～(ちくま学芸文庫)

良知　力 著
筑摩書房
朝日新聞 2025/07/19

1993:10./ 322p
978-4-480-08099-8
¥1,430〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

小津ごのみ(ちくま文庫　な 19-3)

中野　翠 著
筑摩書房
小津監督は自分の趣味・好みを映画に最大限取り入れた。インテリア、雑貨、俳優の顔かたち、仕草や口調、会話まで。斬新な小津論。

朝日新聞 2025/07/19

2011:4./ 300p
978-4-480-42820-2
¥924〔税込〕

赤朽葉家の伝説(創元推理文庫)

桜庭　一樹 著
東京創元社
千里眼の祖母、漫画家の母、そして何者でもないわたし。旧家に生きる三代の女たち、そして彼女たちを取り巻く一族の姿を鮮やかに描き上げた稀代の雄編。

朝日新聞 2025/07/19

2010:9./ 456p
978-4-488-47202-3
¥880〔税込〕

うどんキツネつきの(創元 SF 文庫　SF た 2-1)

高山羽根子 著
東京創元社
パチンコ屋の屋上で拾った奇妙な犬を飼う三人姉妹の人生をユーモラスに描いて第 1 回創元 SF 短編賞佳作となった表題作の他、「母のいる島」「おやすみラジオ」など、優しくて可笑しくて不思議な家族と仲間の物語全 5 編を収録。

朝日新聞 2025/07/19

2016:11./ 316p
978-4-488-76501-9
¥1,034〔税込〕

逃亡派(EXLIBRIS)

オルガ・トカルチュク 著
白水社
太陽系モデル発見のその年、世界初の解剖図が出版された。天体と人体、2 つの地図を人間が同時に描き出した歴史的偶然をモチーフに、時代や国境を越え、宇宙的イメージが絡み合う傑作長篇。

朝日新聞 2025/07/19

2014:3./ 420p
978-4-560-09032-9
¥3,630〔税込〕

ネイションという神話～ヨーロッパ諸国家の中世的起源～　新装復刊

パトリック・J・ギアリ 著
白水社
ヨーロッパの近代ナショナリズムがよりどころとする国家の「民族的起源」とは何か。ローマ帝国解体後の古代末期から初期中世までさかのぼり、ヨーロッパの諸民族が形成された歴史的環境を検討し、その実像を明らかにする。

朝日新聞 2025/07/19

2024:5./ 270p
978-4-560-09329-0
¥5,940〔税込〕

指輪物語<1> 最新版 旅の仲間(評論社文庫)

Ｊ・Ｒ・Ｒ・トールキン 著

評論社

ホビットのフロドは、養父のビルボから指輪を譲られる。灰色の魔法使いガンダルフから、その指輪はサウロンの邪悪な力が込められた「一つの指輪」に違いないと告げられたフロドは、3 人の友人とともに「裂け谷」を目指す。

朝日新聞 2025/07/19

2022:10./ 631p
978-4-566-02389-5
¥1,320〔税込〕

指輪物語<2> 最新版 旅の仲間(評論社文庫)

Ｊ・Ｒ・Ｒ・トールキン 著

評論社

エルロンドの館で会議が開かれ、指輪を「滅びの罅裂」に投げ入れて消滅させることが決定された。指輪保持者フロドの同行者として、人間、エルフ、ドワーフ、ホビットそして魔法使いを代表する 8 人の「旅の仲間」が選出された。

朝日新聞 2025/07/19

2022:10./ 547p
978-4-566-02390-1
¥1,320〔税込〕

盲導犬大百科<1> 盲導犬ってどんな犬?

清水　朋美 著

ポプラ社

視覚障害者の歩行を助ける盲導犬。いっしょに歩く視覚障害者を盲導犬ユーザーといいます。視覚障害者がどのように盲導犬から情報を受けとり、どんなふうに歩いているのかを、写真やまんがとともにわかりやすく説明します。

朝日新聞 2025/07/19

2025:4./ 47p
978-4-591-18482-0
¥3,080〔税込〕

アメリカの反知性主義

リチャード・ホーフスタッター、田村　哲夫 著

みすず書房

アメリカの知的伝統とは?知識人は民主主義の実現に貢献する力になれるのか?政治・宗教・実業・教育・文学…。建国から現代まで、アメリカ史の地下水脈を問うピュリッツァー賞受賞作。

朝日新聞 2025/07/19

2003:12./ 438p
978-4-622-07066-5
¥5,720〔税込〕

日本史教科書検定三十五年～教科書調査官が回顧する～

照沼　康孝 著

吉川弘文館

家永第三次訴訟、沖縄戦集団自決の検定問題…。日本史教科書検定をめぐるさまざまな問題に長年かかわった元調査官の回顧録。教科書として適切かを調査する検定現場の実態や文科省の内実、検定関係文書の存在を初めて公にする。

朝日新聞 2025/07/19

2025:4./ 220p
978-4-642-08477-2
¥2,420〔税込〕

クジラの骨と僕らの未来(世界をカエル)

中村玄 著

理論社

小さな頃から生き物が大好きで、様々な動物を飼っていた著者。中学2年生の時、骨格見本に興味を持ち、死んでしまったペットのハムスターの墓あばきを思いつき…。骨からスタートしたクジラ博士の研究航海記。

朝日新聞 2025/07/19

2021:7./ 189p
978-4-652-20436-8
¥1,430〔税込〕

世界の朝ごはん～66カ国の伝統メニュー～

パイ インターナショナル 編

パイインターナショナル

フランスのクロワッサン、アメリカのエッグベネディクト、中国の白粥…。朝ごはんには文化や歴史がつまってる! 世界66カ国167種類の伝統メニューを、各国の朝の風景とともに紹介する。

朝日新聞 2025/07/19

2023:3./ 191p
978-4-7562-5595-2
¥2,035〔税込〕

謝罪論～謝るとは何をすることなのか～

古田 徹也 著

柏書房

「すみません」では済まないとき、何をすれば謝ったことになる? 責任、償い、約束、赦し、後悔、誠意への懐疑…。謝罪の機能や不適切な謝罪の特徴を解き明かし、学際的な知を総動員して、「謝罪の全体像」に迫る。

朝日新聞 2025/07/19

2023:9./ 303p
978-4-7601-5533-0
¥1,980〔税込〕

ギリシアへの陶酔～ジョージ・グロートとJ.S.ミルによる古代ギリシア思想の受容～

村田 陽 著

ナカニシヤ出版

ベンサムの功利主義を受け継いだ<哲学的急進派>の2人は、ソクラテスやプラトンをどう読み解いたのか。グロートとミルによるギリシア受容を歴史的に再構成しながら、ヴィクトリア朝時代における自由論・民主政論を探究する。

朝日新聞 2025/07/19

2025:3./ 274p
978-4-7795-1849-2
¥4,950〔税込〕

崩壊学～人類が直面している脅威の実態～(草思社文庫 セ2-1)

パブロ・セルヴィーニュ／ラファエル・スティーヴンス 著

草思社

疲弊する社会制度、エネルギーの枯渇、グローバル化によるリスクの拡大、レジリエンスを失った生態系、異常気象の頻発…。現行の枠組が崩壊間際になっている現状をデータとともに提示する。

朝日新聞 2025/07/19

2022:12./ 307p
978-4-7942-2619-8
¥1,210〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

哲学ってどんなこと?～とっても短い哲学入門～

トマス・ネーゲル 著

昭和堂

朝日新聞 2025/07/19

1993:4./ 145p
978-4-8122-9305-8
¥2,136〔税込〕

クジラのおなかに入ったら(Natsume‐sha Science)

松田純佳 著

ナツメ社

クジラの胃の内容物からわかる海の不思議とは。函館を拠点にストランディング調査(打ち上げられたクジラの調査)を行い、専門の調査機関を設立した著者の歩みを、数々の事件や研究の苦労、恩師らとの関わりを通して紹介する。

朝日新聞 2025/07/19

2021:11./ 223p
978-4-8163-7105-9
¥1,430〔税込〕

饗宴/パイドン(西洋古典叢書)

プラトン 著

京都大学学術出版会

喜劇作家アリストパネスなど、参加者達の面々が繰り広げた"エロース(恋)"讃美の「饗宴」と、死刑宣告を受けたソクラテスが、処刑の前に"死"をめぐってかわした哲学談義「パイドン」を収録。

朝日新聞 2025/07/19

2007:12./ 486p
978-4-87698-172-4
¥4,730〔税込〕

日本で働く～外国人労働者の視点から～

伊藤　泰郎／崔　博憲／四方　久寛 著

松籟社

外国人労働者の目に、縮小する現代日本はどのように映っているのか。技能実習生や日系人たちをとりあげ、統計、聞き取り、支援活動の経験から「向う側」の視点にせまり、外国人労働者との関係を見つめなおす。

朝日新聞 2025/07/19

2021:3./ 443p
978-4-87984-384-5
¥2,860〔税込〕

小田嶋隆のコラム道

小田嶋隆 著

ミシマ社

書き出し、オチ、文体と主語、裏を見る眼…。数々の名コラムを生み出してきた著者による、笑えて深遠、奇跡のコラム論。内田樹との特別対談も掲載。『ミシマガジン』『R25 college』連載を元にして単行本化。

朝日新聞 2025/07/19

2012:6./ 253p
978-4-903908-35-9
¥1,650〔税込〕

それはわたしが外国人だから?～日本の入管で起こっていること～

安田菜津紀／金井真紀 著

ヘウレーカ

日本の入管政策に翻弄されてきた外国にルーツのある 4 人の生きた道のりをたどり、彼らがどんな困難に直面してきたかを平易なことばでまとめる。入管法や難民の人たちをもっと知るための Q&A も収録。

朝日新聞 2025/07/19

2024:4./ 183p
978-4-909753-17-5
¥1,980〔税込〕

帰れない探偵

柴崎 友香 著

講談社

「世界探偵委員会連盟」に所属する「わたし」は、ある日突然、探偵事務所兼自宅の部屋に帰れなくなった-。“帰れない探偵”が激動する世界を駆け巡る、全く新しい探偵小説。『群像』など掲載を加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2025/07/25

2025:6./ 299p
978-4-06-539710-7
¥2,035〔税込〕

ビスケット

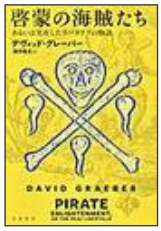
キム・ソンミ 著

飛鳥新社

存在感を失い、誰にも気づかれずに生きる“ビスケット”。壊れやすく、かすかな音や気配だけを残して、ひっそりと息をひそめている彼らを、過敏な聴覚を使って見つけられる少年ジェソンは、仲間たちと救出作戦を開始するが…。

朝日新聞 2025/07/25

2025:7./ 250p
978-4-86801-086-9
¥1,650〔税込〕



啓蒙の海賊たち～あるいは実在したリバタリアの物語～

デヴィッド・グレーバー 著

岩波書店

啓蒙思想はヨーロッパ貴族のサロンではなく、マダガスカルの海賊と先住民女性たちの社会実験から生まれたのではないか。海賊王国の「本当の」歴史をたどり直し、自由、国家、民主主義をめぐる常識を覆す。著者生前最後の書。

朝日新聞 2025/07/26

2025:4./ 230p
978-4-00-061685-0
¥2,640〔税込〕

新選山のパンセ～串田孫一自選～(岩波文庫　緑 148-1)

串田　孫一 著

岩波書店

詩人・哲学者串田孫一(1915-)の、山をめぐる随想集。ページをめくると、独特の詩的で平易な文章で綴られた、山靴やスキーで野山を逍遙する著者の世界がひろがる。著者自身が選び再編成した決定版。

朝日新聞 2025/07/26

1995:6./ 356p
978-4-00-311481-0
¥968〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ケアの物語～フランケンシュタインからはじめる～(岩波新書　新赤版 2071)

小川 公代 著

岩波書店

「フランケンシュタイン」を起点に、生命を軽視し、弱者を蹂躙する強者の物語に対して、権力をもたない「アウトサイダー」たちの物語がいかに軽視されてきたかを、文学や映画を例に挙げながら論じる。『世界』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/07/26

2025:6./ 302p
978-4-00-432071-5
¥1,100〔税込〕

外務官僚たちの大東亜共栄圏(新潮選書)

熊本 史雄 著

新潮社

「無謀な構想」の本丸は軍部でも右翼でもなくエリート官僚だった! 日露戦後、外務省は変化する情勢の中で誤算を重ね無謀な秩序構想を練り上げていく。国際派エリートたちが陥った「失敗の本質」を外交史料から炙り出す。

朝日新聞 2025/07/26

2025:5./ 301p
978-4-10-603926-3
¥1,980〔税込〕

戦争犯罪と闘う～国際刑事裁判所は屈しない～(文春新書　1496)

赤根 智子 著

文藝春秋

ロシアによるウクライナ侵攻と、イスラエルによるガザへの非人道的な攻撃。2 つの戦争に向き合い、プーチンとネタニヤフに逮捕状を出した国際刑事裁判所のトップが、国際紛争の最前線で闘う裁判所の奮闘を語る。

朝日新聞 2025/07/26

2025:6./ 223p
978-4-16-661496-7
¥1,045〔税込〕

ガウディの伝言(光文社新書)

外尾　悦郎 著

光文社

大学で彫刻を学んだ 25 歳の青年は、ふらっとやってきたスペインのバルセロナでガウディの建築と出逢った。サグラダ・ファミリアで彫刻家として活躍する著者が、天才建築家のメッセージを読み解く。

朝日新聞 2025/07/26

2006:7./ 317p
978-4-334-03364-4
¥1,045〔税込〕

割れたグラス(アフリカ文学の愉楽)

アラン・マバンク 著

国書刊行会

中部アフリカ、コンゴ共和国の下町にあるバーの主人からの依頼で、「割れたグラス」はバーとその常連客たちとの日々を 1 冊のノートに書き留めていく。いずれ劣らぬ酔客たちの奇怪な逸話が次々とノートに綴られていき…。

朝日新聞 2025/07/26

2025:4./ 283p
978-4-336-07694-6
¥2,860〔税込〕

ウルトラライトハイキング～Hike light,Go simple～

2011:2./ 158p
978-4-635-15024-8
¥1,650〔税込〕

土屋　智哉 著
山と渓谷社
できるだけシンプルな道具で自然と向き合う「ウルトラライトハイキング」。本場アメリカにおける誕生の背景や、そこに内在する「哲学」、実際のトレイルにおける注意点やテクニックなどを解説する。

朝日新聞 2025/07/26

コロナ対策の政策評価～日本は合理的に対応したのか～

2025:6./ 280p
978-4-7664-3038-7
¥3,300〔税込〕

岩本 康志 著
慶應義塾大学出版会
コロナ禍における日本の政策対応を、EBPM(合理的根拠に基づく政策形成)の視点と経済学の視点から検証。数理モデルの誤用や費用対効果の検証の軽視といった問題を鋭く指摘し、次なる危機に備えるための知見を提示する。

朝日新聞 2025/07/26

魚の耳で海を聴く～海洋生物音響学の世界～

2025:4./ 351p
978-4-8067-1683-9
¥3,520〔税込〕

アモリナ・キングドン 著
築地書館
海中の生物たちの聞く仕組みの探究、海底資源探査に使われるエアガンがプランクトンやホタテ貝にもたらす深刻なダメージ、海藻の森の騒音遮断効果…。海洋での動物たちの水中音についての、深遠で新しい研究成果を提供する。

朝日新聞 2025/07/26

ウォークス～歩くことの精神史～

2017:7./ 517p
978-4-86528-138-5
¥4,950〔税込〕

レベッカ・ソルニット、東辻　賢治郎 著
左右社
ブローニュの森を散歩して「人間不平等起源論」を書いたルソー、夜歩いただけで逮捕された 19 世紀の女性、刑務所の踏み車=ルームランナーの起源…。多岐にわたる領野を渉猟し、思考と文化と歩行の深い結びつきを解き明かす。

朝日新聞 2025/07/26

或～句集～

2025:5./ 155p
978-4-7814-1750-9
¥2,970〔税込〕

大塚凱 著
ふらんす堂
みんな見てゐる手花火の一本目 冷蔵庫ひらくあしたとおなじ貌 見晴らしに釈迦を寝かせて長い午後 寝たいだけ眠る聖樹のない部屋に どの木どんな笛になつてもいい涼しい 句集。

朝日新聞 2025/07/27

江戸職人綺譚～傑作時代小説～(光文社文庫　光文社時代小説文庫 さ 42-1)

佐江衆一 著
光文社
江戸一の名人錠前師がやんごとなき筋から頼まれたのは、かなり奇怪な仕事で…。「解錠綺譚」をはじめ、凧師、人形師など江戸の暮らしに浸透していた様々な職人たちの人間模様を描いた、全 9 編の傑作短編を収録する。

東京・中日新聞 2025/07/05

2025:6./ 384p
978-4-334-10687-4
¥1,034〔税込〕

こっせつくん(春風亭一之輔と得地直美えほんシリーズ)

春風亭一之輔 著
テキサスブックセラーズ
お昼休み、鉄棒でぐるぐるまわっていたら、ドーンと落ちて、腕の骨が折れちゃった。しばらく入院することになってしょんぼりしていたら…!? 落語家・春風亭一之輔がおくる、めくるめく骨折ナンセンス。

東京・中日新聞 2025/07/05

2025:5./ 32p
978-4-911170-02-1
¥1,540〔税込〕

レトロな世界に分け入る～そこでは魅力的な店主があなたを待っている～

横道　誠 著
教育評論社
昭和のおもちゃ、怪奇マンガ、ちゃぶ台、ブリキの皿…。レトロなものを扱う店主は、どんな世界に棲んでいるのか。10 歳でレトロなものに目覚めた著者が、レトロ商たちの生いたちや体験談を紹介しながらその魅力に迫る。

東京・中日新聞 2025/07/06

2025:4./ 191p
978-4-86624-116-6
¥2,200〔税込〕

真実の幻影

堂場瞬一 著
朝日新聞出版
ノンフィクションの連載を担当することになった東日新聞の高岡。30 年以上前に起きた未解決の女児誘拐事件を取り上げることにしたが、不可解な点が次々と浮かび上がり、脅迫まで受けることに…。『一冊の本』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2025/07/12

2025:5./ 363p
978-4-02-252055-5
¥1,980〔税込〕

ままならぬ顔・もどかしい身体～痛みと向き合う 13 話～

山口　真美 著
東京大学出版会
顔、身体は誰のものか? 顔認知研究の第一人者が、自己と他者のはざまでゆれ動く顔と身体を対比させながら、ルッキズム、ジェンダーなどの身近な社会問題から病や死の受け止め方まで、傷つきによりそって考える。

東京・中日新聞 2025/07/13

2025:4./ 176p
978-4-13-013319-7
¥2,420〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

江藤淳と加藤典洋～戦後史を歩きなおす～

與那覇 潤 著

文藝春秋

戦後 80 年。再生する日本が「青春期」に悶えた記憶を老いたいま、どう受けとるのか。文芸評論の巨人ふたりに倣いつつ、太宰治から村上龍、春樹まで、“魂”の遍歴をたどる。

東京・中日新聞 2025/07/13

2025:5./ 317p
978-4-16-391982-9
¥2,090〔税込〕

廃線だけ～平成・令和の棄景～

丸田　祥三 著

実業之日本社

長年にわたって廃線を撮り続けてきた写真家・丸田祥三による写真集。屋代島の軌道、東京都電など、平成末期から令和にかけて全国各地で撮影した鉄道の跡 158 景を収録。本体は背表紙なし糸綴じ。

東京・中日新聞 2025/07/19

2025:5./ 164p
978-4-408-33855-2
¥3,850〔税込〕

烈風を斬れ

砂原浩太朗 著

双葉社

関白・豊臣秀次の遺児・孫七郎は、「大坂の陣」前夜、大坂方の密使として、全国に散らばる牢人たちを仲間に引き入れる役目を受け…。戦国の烈風にさらされながらも、前を向き歩く若者たちの物語。『小説推理』連載に加筆修正。

東京・中日新聞 2025/07/19

2025:6./ 297p
978-4-575-24824-1
¥1,980〔税込〕

ライオンの場所(DALKEY ARCHIVE)

チャールズ・ウィリアムズ 著

国書刊行会

見世物小屋から一頭のライオンが逃げ出したことをきっかけに、異形の<天使>たちが降臨。浸食される現実世界を救おうとする青年の前に、驚愕のヴィジョンが…。希代の幻視者ウィリアムズによる幻想小説の傑作。

東京・中日新聞 2025/07/20

2025:4./ 310p
978-4-336-06066-2
¥3,080〔税込〕

ぼっちのアリは死ぬ～昆虫研究の最前線～(ちくま新書　1851)

古藤 日子 著

筑摩書房

家族を守る、治療する、感染リスクを見極める…。社会性昆虫であるアリは、ヒトと似て、他者と関わり、社会のなかで生きていく。社会から出て、ぼっちになったアリはどうなるのか。分子生物学でアリ社会の謎を解く。

東京・中日新聞 2025/07/20

2025:4./ 192p
978-4-480-07680-9
¥924〔税込〕

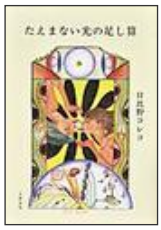
MARUZEN-YUSHODO

トラジェクトリー

2025:7./ 172p
978-4-16-392012-2
¥1,980〔税込〕

グレゴリー・ケズナジャット 著
文藝春秋
日本で就職した英会話教師・ブランドン。熟年の生徒・カワムラとレッスンを続けるうち、2 人のあいだに不思議な交流が生まれ…。アメリカ出身作家が端正な日本語で描く「越境文学」。『文學界』掲載の表題作ほか全 2 編を収録。

東京・中日新聞 2025/07/26



たえまない光の足し算

2025:7./ 158p
978-4-16-392013-9
¥1,980〔税込〕

日比野 コレコ 著
文藝春秋
美容外科のポスターに啓示を受け花を食べる“異食の道化師”薗、「みんなのひと」になりたい“抱擁師”ハグ、デビューしたばかりの“プロの軟派師”弘愛。若者たちの生を、鮮烈な文章で描く。『文學界』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/07/26

源家物語

2025:7./ 398p
978-4-19-866021-5
¥2,310〔税込〕

真保裕一 著
徳間書店
「多くの罪なき者を殺す」と世に怖れられた源義家。源氏の棟梁として、奥州の厳しい戦いを 2 度乗り越え、武者としての名声と武功を高めていく。一方京では、義家一門を陥れる謀略が進み…。新たな源平時代を描き出す歴史巨篇。

東京・中日新聞 2025/07/26

戌井昭人芥川賞落選小説集(ちくま文庫　い 107-1)

2025:1./ 458p
978-4-480-44000-6
¥1,320〔税込〕

戌井 昭人 著
筑摩書房
モラルも常識もあんまり通用しない脱力しまくりの独特の世界観が炸裂する! もっとも芥川賞に近かった作家・戌井昭人が綴った、芥川賞“落選”作 5 作品をまとめたオリジナル小説集。

東京・中日新聞 2025/07/26

政治理論と動物～動物のための正義はありうるか?～

2025:6./ 240p
978-4-622-09782-2
¥4,400〔税込〕

アラスデア・コクラン 著
みすず書房
政治思想史において、動物の地位の問題はおおむね無視されてきた。西洋政治思想史を概観し、功利主義、リベラリズム、フェミニズムなど現代の主要な政治理論を取り上げ、動物のための正義の議論の現在地と進むべき方向を示す。

東京・中日新聞 2025/07/26

ひんやりごはん～冷やしておいしい健やかレシピ 63～(料理とお菓子)

蓮池 陽子 著
山と渓谷社
キッチンに立つこと自体、暑い夏は億劫になりがち。旬の夏野菜を主役にした、できるだけ火を使わない、体にやさしい、冷やしておいしく食べる麺やおかず、万能だれを紹介します。栄養バランスを重視したラインナップ。

東京・中日新聞 2025/07/26

2025:5./ 111p
978-4-635-45090-4
¥1,760〔税込〕

中世武士団偽りの血脈～名字と系図に秘められた企て～(講談社選書メチエ 825)

桃崎 有一郎 著
講談社
あたらしい時代にのし上がろうとした武士たちは“貴”たらんとして「源・平・藤原」姓を掠めとった! 佐藤、首藤などの名字が、中世武士団のアイデンティティ闘争の産物であったという隠された真相を暴き出す。

東京・中日新聞 2025/07/27

2025:6./ 356p
978-4-06-539970-5
¥2,530〔税込〕

給水塔から見た虹は

窪 美澄 著
集英社
はじめてできた「ルーツ」の違う友達、母とのすれ違い-。この世界のさまざまな分断に戸惑う 2 人の“こども”が、少しずつ“おとな”になるひと夏を描く。『小説すばる』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/07/27

2025:7./ 380p
978-4-08-770006-0
¥2,090〔税込〕

マリヤの賛歌(岩波現代文庫　社会 354)

城田 すず子 著
岩波書店
「慰安婦」であったことを自ら名乗り出た城田すず子が、家業没落後に芸者屋に売られ、国内外の遊郭や軍「慰安所」で性売買女性として生きざるをえなかった戦中戦後の苦難の日々を、婦人保護施設入所後に振り返った半生記。

読売新聞 2025/07/06

2025:6./ 314p
978-4-00-603354-5
¥1,408〔税込〕

テロリストのパラソル(講談社文庫)

藤原 伊織 著
講談社
アル中バーテンダーの島村は、過去を隠し 20 年以上もひっそりと暮らしてきたが、新宿中央公園の爆弾テロに遭遇してから生活が急転する。史上初の乱歩賞&直木賞 W 受賞作。

読売新聞 2025/07/06

1998:7./ 387p
978-4-06-263817-3
¥792〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

孤独の時間。

群像編集部 編
講談社
いつでも何かと繋がる時代、見えてきたのは“寂しい”以外の孤独のかたち-。麻布競馬場、上野千鶴子、筒井康隆、平野啓一郎ら 44 人が綴る、「ひとりの時間」に向き合うエッセイ・アンソロジー。『群像』掲載を書籍化。

読売新聞 2025/07/06

2025:6./ 185p
978-4-06-539712-1
¥1,430〔税込〕

移動と階級(講談社現代新書　2774)

伊藤 将人 著
講談社
移動とは何か? なぜ、どんなふうに移動は不平等なのか? 「移動格差」という言葉をキーワードに移動を問い直して、現代の移動の実態と、移動がつくる社会の姿を明らかにし、格差解消に向けた 5 つの観点と方策を示す。

読売新聞 2025/07/06

2025:5./ 261p
978-4-06-539734-3
¥1,100〔税込〕

『改造』論文集成～革新の現象学と倫理学～(講談社学術文庫 2852)

エトムント・フッサール 著
講談社
現象学の創始者・フッサールは、その地位を確立した「イデーンⅠ」を刊行後、長い沈黙の時期に入る。その間、世界大戦を経験するヨーロッパの中で何を思索したのか。日本の雑誌『改造』の依頼で寄稿した論文、関連資料を収録。

読売新聞 2025/07/06

2025:5./ 395p
978-4-06-539814-2
¥1,870〔税込〕

戦前日本の「聖地」ツーリズム～キリスト・日蓮・皇室～(NHK ブックス 1294)

平山 昇 著
ＮＨＫ出版
明治末期を起点に、「聖地」ツーリズムがいかに発展し、社会の中の同調圧力を生み出すに至ったかを解明。日常語となった「聖地」という語の背景に、総力戦体制を支えた<空気>のルーツを探る。

読売新聞 2025/07/06

2025:5./ 350p
978-4-14-091294-2
¥1,980〔税込〕

彼女たちの牙と舌

矢樹 純 著
幻冬舎
年代も仕事も家庭環境も異なる母親 4 人が出会ったのは、進学塾の保護者説明会だった。それをきっかけに定期的に集うようになるが、ある日、詐欺事件に巻き込まれ…。長編ミステリー。『小説幻冬』連載に加筆・修正。

読売新聞 2025/07/06

2025:5./ 279p
978-4-344-04438-8
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

フォルモサ南方奇譚

倉本 知明 著

春秋社

歴史と民族が複雑に折り重なる、南台湾。南台湾の各地を訪れ、その地に伝わる伝承や怪異譚、その地に生きた人物の歴史や文学作品を通じて、その重層的な歴史と文化を描き出す。『Web 春秋はるとあき』連載に加筆修正。

読売新聞 2025/07/06

2025:4./ 368p
978-4-393-42463-6
¥2,750〔税込〕

現代文の学び方(ちくま学芸文庫 タ 30-3)

高田 瑞穂 著

筑摩書房

現代文とは何らかの意味において現代の必要に応えた表現であり、その読解のためには書き手や出題者の問題意識を精確に把握し、徹底的に分析することが求められる。そんな明快な立場を提示し「新釈現代文」の礎となった書。

読売新聞 2025/07/06

2025:5./ 271p
978-4-480-51300-7
¥1,320〔税込〕

無名兵士の戦場スケッチブック～砲弾と飢餓と鎮魂～

砂本 三郎 著

筑摩書房

激戦の中国戦線、多くの餓死者を出した南方の島…。一人の庶民・砂本三郎が体験した、陸軍一兵卒としての過酷な戦場体験を描いた鮮烈な 130 枚のスケッチを収める。渡辺考の解説も掲載。

読売新聞 2025/07/06

2025:7./ 207p
978-4-480-81866-9
¥3,080〔税込〕

時間・自己・幻想～東洋哲学と新実在論の出会い～(PHP 新書　世界の知性シリーズ　1428)

大野 和基 編

マルクス・ガブリエル 著

ＰＨＰ研究所

仏教の存在論、「老子」の「善」…。ドイツ哲学の旗手、マルクス・ガブリエルが、国際ジャーナリストの大野和基を聞き手とするインタビューで、時に批判しながら、仏教・中国思想・日本哲学の現代における価値を語る。

読売新聞 2025/07/06

2025:4./ 202p
978-4-569-85901-9
¥1,320〔税込〕

トイ・ストーリー講義～もうひとつのアメリカ文化史～

川本　徹 著

平凡社

世界屈指の人気映画シリーズ「トイ・ストーリー」には、アメリカについて、映画やアニメーションについて、さらには人生について考えるヒントがつまっている。「トイ・ストーリー」の全長編をとりあげ、その魅力を論じる。

読売新聞 2025/07/06

2025:6./ 258p
978-4-582-28270-2
¥3,080〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ペリリュー～楽園のゲルニカ～<1>(YOUNG ANIMAL COMICS)

武田一義／平塚柾緒(太平洋戦争研究会) 著
白泉社
太平洋戦争末期のペリリュー島に漫画家志望の兵士、田丸はいた。そこはサンゴ礁の海に囲まれ、美しい森に覆われた楽園。そして日米合わせて5万人の兵士が殺し合う狂気の戦場。祖国から遠く離れた小さな島で、彼らは何のために戦い、何を思い生きたのか－!?

読売新聞 2025/07/06

2016:8./ 160p
978-4-592-14187-7
¥880〔税込〕

輪島と漆

高森 寛子／桐本 泰一 編
亜紀書房
地震と豪雨を経てもなお、輪島の漆文化を未来へつなぐ-。人間国宝・小森邦衛、彦十蒔絵プロデューサー・若宮隆志、輪島キリモト代表・桐本泰一、スペースたかもり主宰・高森寛子らが、漆の仕事、能登の復興について語る。

読売新聞 2025/07/06

2025:6./ 127p
978-4-7505-1878-7
¥2,200〔税込〕

ペットを愛した人たちがペットロスについて語ったこと～作家・アーティストたちの152の言葉～

サラ・ベイダー 著
フィルムアート社
ペットとの絆、別れを迎える「そのとき」の心境、その後の喪失感とどう向き合ったか-。レイモンド・チャンドラー、ヘレン・ケラーなど、古今東西の著名人がのこした、ペットにまつわることばとエッセイを収録する。

読売新聞 2025/07/06

2025:5./ 245p
978-4-8459-2408-0
¥2,200〔税込〕

日中外交秘録～垂秀夫駐中国大使の闘い～

垂 秀夫 著
文藝春秋
中国共産党内に裏人脈を張り巡らせ、機密情報を誰よりも早く入手し、理不尽な恫喝に屈しない…。異能の外交官、垂秀夫駐中国大使が明かす秘話満載の回顧録。習近平時代を読み解く3つの視座、台湾有事の本当の意味とは?

読売新聞 2025/07/06、産経新聞 2025/07/13、日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 542p
978-4-16-391987-4
¥2,750〔税込〕

恋恋往時

温 又柔 著
集英社
自分にないものを思って憂うのではなく、私だけが持っているもののことを考えよう-。国境と言語を跨いで差し込む光に照らされた、日本と台湾、4つの物語。『すばる』など掲載に書き下ろしを加え単行本化。

読売新聞 2025/07/06、朝日新聞 2025/07/12

2025:5./ 226p
978-4-08-771892-8
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

立ち読みの歴史(ハヤカワ新書 043)

小林　昌樹 著

早川書房

かつて洋行知識人は「海外に立ち読みなし」と証言した。日本特有の習俗「立ち読み」はいつ、どこで生まれ、庶民の読書文化を形作ってきたのか。これまで注目されてこなかった資料を発掘し、その歴史を描き出す。

読売新聞 2025/07/06、毎日新聞 2025/07/12

2025:4./ 195p
978-4-15-340043-6
¥1,320〔税込〕

今日は昨日のつづき～どこからか言葉が～

谷川俊太郎 著

朝日新聞出版

目が覚める 庭の紅葉が見える 昨日を思い出す まだ生きてるんだ 今日は昨日のつづき だけでいいと思う 何かをする気はない(「感謝」より) 47 篇を収めた詩集。『朝日新聞』連載をまとめて単行本化。

読売新聞 2025/07/13

2025:6./ 101p
978-4-02-252065-4
¥1,760〔税込〕

沈黙のファイル～「瀬島龍三」とは何だったのか～(朝日文庫　き 29-1)

共同通信社社会部 編

朝日新聞出版

大本営参謀、敗戦、シベリア抑留、賠償ビジネス、防衛庁商戦、中曽根政権誕生…。太平洋戦争に深くかかわり、戦後政治にも暗躍し、“昭和の参謀”と呼ばれた男・瀬島龍三の真実に迫るノンフィクションの復刻。

読売新聞 2025/07/13

2025:6./ 445p
978-4-02-262116-0
¥1,100〔税込〕

日本の男を喰い尽くすタガメ女の正体(講談社+α 新書 612-1A)

深尾　葉子 著

講談社

サラリーマン社会を呪縛する「幸福の偽装工作」とは? 男に「箍」をはめて支配する「タガメ女」の恐るべき生態と、彼女たちを家庭に閉じ込め、害虫というポジションに縛りつける「カエル男」たちとの共犯関係を解き明かす。

読売新聞 2025/07/13

2013:4./ 187p
978-4-06-272796-9
¥921〔税込〕

アルゴリズム・AI を疑う～誰がブラックボックスをつくるのか～(集英社新書 1263)

宇田川 敦史 著

集英社

あなたの選択は誘導されている? アマゾンなどを例に、デジタル・メディアや AI のしくみを解説し、ブラックボックス化している内部構造への想像力を高めることを通じて、アルゴリズム・AI を疑うための視点を提示する。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 237p
978-4-08-721363-8
¥1,100〔税込〕

鬼滅の刃<1> 残酷(ジャンプコミックス)

吾峠 呼世晴 著

集英社

時は大正時代。炭を売る心優しき少年・炭治郎の日常は、家族を鬼に皆殺しにされたことで一変する。唯一生き残ったものの、鬼に変貌した妹・禰豆子を元に戻すため、また家族を殺した鬼を討つため、炭治郎と禰豆子は旅立つ!!

読売新聞 2025/07/13

2016:6./ 152p
978-4-08-880723-2
¥484〔税込〕

張込み 改版(新潮文庫)

松本 清張 著

新潮社

平凡な主婦の秘められた過去を、殺人犯を張込み中の刑事の眼でとらえて、推理小説界に新風を吹きこんだ表題作など 8 編を収める。

読売新聞 2025/07/13

2001:8./ 451p
978-4-10-110906-0
¥781〔税込〕

一九八四年 新訳版(ハヤカワ epi 文庫 53)

ジョージ・オーウェル 著

早川書房

〈ビッグ・ブラザー〉率いる党が支配する超全体主義的近未来。ウィンストン・スミスは真理省記録局に勤務する党員で、歴史の改竄が仕事だった。ある時、奔放な美女ジュリアと出会ったことを契機に、伝説的な裏切り者が組織したと噂される反政府地下活動に惹かれるようになるが……。

読売新聞 2025/07/13

2009:6./ 511p
978-4-15-120053-3
¥990〔税込〕

菊池寛アンド・カンパニー

鹿島 茂 著

文藝春秋

編集後記を双方向メディアとして使い、予約購読を呼びかけクラウドファンディングで資金を調達。ベストセラー作家にして文藝春秋を創った菊池寛とその仲間たちの姿を新たな視点で描き出す。『文藝春秋 PLUS』連載を書籍化。

読売新聞 2025/07/13

2025:6./ 512p
978-4-16-391988-1
¥3,630〔税込〕

学園ドラマは日本の教育をどう変えたか～《熱血先生》から《官僚先生》へ～

西岡 壱誠 著

笠間書院

ドラマ「ドラゴン桜」を見て東大に逆転合格し、「御上先生」などの監修をした著者が、学園ドラマ、特に「先生モノ」と呼ばれる作品について検証。そこで描かれるテーマとメッセージから、日本の教育と教師像を考察する。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 209p
978-4-305-71043-7
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

古事記の博物図鑑～1300 年前の日本の生物・植物・鉱物を 1000 点以上のヴィジュアルで解き明かす～

伊藤 弥寿彦 著
世界文化社
古代日本人はどのような生物、植物、鉱物などを認識していたのか? 「古事記」に登場する自然物を、動物、植物、無機物、藻類、菌類に分類し、物語の流れに沿って、写真や図版とともに紹介する。「古事記」の現代語訳も収録。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 463p
978-4-418-24211-5
¥6,600〔税込〕

害虫の誕生～虫からみた日本史～　増補(ちくま学芸文庫　セ 9-1)

瀬戸口 明久 著
筑摩書房
江戸時代、虫は自然発生するものだと考えられていた。だが、近代化の過程で、「害虫」は排除の対象となっていく。日本において「害虫」がいかにして誕生したかを、科学と社会の両面から考察し、人間と自然の関係を問いなおす。

読売新聞 2025/07/13

2025:6./ 281p
978-4-480-51178-2
¥1,320〔税込〕

米と小麦の戦後史～日本の食はなぜ変わったのか～(ちくま学芸文庫　タ 62-1)

高嶋 光雪 著
筑摩書房
戦後、日本人の食生活に普及した小麦。その背景にはアメリカと日本の思惑の一致があった。NHK ディレクターが関係者の証言や資料から戦後食糧史の空白に迫った貴重な記録。飼料穀物の対日市場開拓を追った補論も収録。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 336p
978-4-480-51303-8
¥1,430〔税込〕

嘘つきたちへ(ミステリ・フロンティア 121)

小倉 千明 著
東京創元社
過疎の町で小学校時代を過ごした大地は、卒業以来初めて同級生と再会。思い出話は 5 年生の時に起こった事故の話に移っていく。その水難事故の真相とは? 第 1 回創元ミステリ短編賞受賞の表題作など、全 5 編を収録。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 274p
978-4-488-02027-9
¥1,980〔税込〕

朝からブルマンの男(ミステリ・フロンティア 122)

水見 はがね 著
東京創元社
1 杯 2000 円もするコーヒーを週に 3 度注文しては、飲み残していく男の目的とは…。第 1 回創元ミステリ短編賞受賞の表題作をはじめ、大学ミステリ研究会の 2 人組が出合った謎を描いた全 5 編を収録。

読売新聞 2025/07/13

2025:6./ 271p
978-4-488-02028-6
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

夜と霧　新版

ヴィクトール・E・フランクル 著
みすず書房
心理学者、強制収容所を体験する－。飾りのないこの原題から、永遠のロングセラーは生まれた。原著の改訂版である 1977 年版にもとづき、新たな訳者で新編集。人間の偉大と悲惨をあますところなく描く。

読売新聞 2025/07/13

2002:11./ 169p
978-4-622-03970-9
¥1,870〔税込〕

生きがいについて(神谷美恵子コレクション)

神谷　美恵子 著
みすず書房
ひとたび生きがいを失ったらどう生きるか。ハンセン病患者との出会いから生まれた永遠のテーマ「生きがい」を考える。病や愛する人の死など苦難に見舞われた人の生きる喜びとは?66 年初版の名著に執筆当時の日記を付す。

読売新聞 2025/07/13

2004:10./ 360p
978-4-622-08181-4
¥1,980〔税込〕

アンチ・アンチエイジングの思想～ボーヴォワール『老い』を読む～

上野千鶴子 著
みすず書房
人はなぜ老いを恐れるのか。ボーヴォワールの「老い」を通して、あらゆる角度から老いの現実を照らし、自己嫌悪させる社会のからくりを暴く。老い衰え、自立を失った人間が生きる社会を構想する。『みすず』連載を書籍化。

読売新聞 2025/07/13

2025:4./ 317p
978-4-622-09730-3
¥2,970〔税込〕

シリアの秘密の図書館

ワファ―・タルノーフスカ　著
くもん出版
ヌールの暮らす町ダマスカスは、突然始まった内戦に揺れていた。地下シェルターでの避難生活の中で、ヌールといとこのアミールは秘密の図書館を作ることを思いつき…。内戦下のシリアに実在した地下図書館から着想を得た物語。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 32p
978-4-7743-3853-8
¥1,760〔税込〕

中国の政治体制と経済発展の限界～習近平政権の課題～

劉徳強、湯浅健司、日本経済研究センター 著
文眞堂
中国の長期発展が阻害されている要因は、習近平による強権統治の影響だけでなく、共産党一党独裁という政治体制そのものの限界が鮮明になってきたためではないか。中国の諸課題と今後の見通しについて多彩な専門家が分析する。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 217p
978-4-8309-5288-3
¥3,520〔税込〕

危機管理の基礎と実践～リスク管理は最強のキャリア術～

グローバルビジネス学会・危機管理研究部会 編

三和書籍

人材の危機、多極化世界、為替、食料・エネルギー危機、気候変動、メディア…。具体的なリスク事例を分析し、危機管理の基本理念を整理。実践的な対応のヒントを提示し、未来を見据えた危機管理のあり方を提言する。

読売新聞 2025/07/13

2025:3./ 304p
978-4-86251-599-5
¥2,640〔税込〕

遺骨と祈り(わたしの旅ブックス 061)

安田 菜津紀 著

産業編集センター

福島、沖縄、パレスチナを訪れ、不条理を強いられて生きる人々の姿を追った 6 年間の行動と思考の記録。歪んだ現代日本の社会構造を浮き彫りにするとともに、未来の人の明日をつくるためには何が必要なのかを提示する。

読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 293p
978-4-86311-443-2
¥1,760〔税込〕

おかわりは急に嫌～私と『富士日記』～

古賀 及子 著

素粒社

日常というのは人にかまってくれないのだ…。日記エッセイの書き手が、武田百合子の「富士日記」を読み、そこから枝分れするように生活と記憶の細部を綴る。素粒社 note 連載に書き下ろしを加えて書籍化。

読売新聞 2025/07/13

2025:4./ 237p
978-4-910413-17-4
¥1,870〔税込〕

ぼくのデフブラらいふ(いきする本だな 7)

門川 紳一郎／金井 真紀 著

ころから

米国のデフブラと出会い、留学。帰国後は当事者が当事者を支援する NPO を立ち上げる。そして、フルマラソンを目指すが張り切りすぎて靱帯を断裂し…。全盲で全ろう「デフブラ(Deaf Blind)」の著者が日常を綴る。

読売新聞 2025/07/13、毎日新聞 2025/07/26

2025:5./ 219p
978-4-907239-77-0
¥2,200〔税込〕

自殺について～他四篇～(岩波文庫　青 632-1)

ショーペンハウアー 著

岩波書店

ショーペンハウアーの「余録と補遺」から、生と死をめぐる 5 篇を収録。人生とは意志=欲望が満たされぬ苦しみと満たされた後の退屈の連続であるが、自殺は偽りの解決策であると斥ける。

読売新聞 2025/07/20

2025:5./ 164p
978-4-00-336327-0
¥770〔税込〕

近代日本の政治家(岩波文庫　青 N126-5)

岡 義武 著

岩波書店

初代首相・伊藤博文、「民衆政治家」大隈重信、「平民宰相」原敬、挫折の政治家・犬養毅、最後の元老・西園寺公望-。5 人の政治家の性格は、それぞれの運命のなかでどのような光を放ったのか。珠玉の伝記的エッセイ。

読売新聞 2025/07/20

2019:10./ 428p
978-4-00-381265-5
¥1,177〔税込〕

日米戦争と戦後日本(講談社学術文庫)

五百旗頭 真 著

講談社

日本が緒戦の勝利に酔っている頃、アメリカはすでに対日占領政策の立案を始めていた!米国の占領政策が戦後日本の歴史に占める意味を鳥瞰する。吉田茂賞受賞作。

読売新聞 2025/07/20

2005:5./ 296p
978-4-06-159707-5
¥1,540〔税込〕

アフターブルー

朝宮 夕 著

講談社

葬儀関係のプロ集団「株式会社 C・F・C」で、事故、事件など損傷の激しい遺体を扱う「二課」は、無残な状態から生前の面影を復元するのがミッション。そして納棺師たちもまた、それぞれに“喪失”を抱えていて…。

読売新聞 2025/07/20

2025:7./ 276p
978-4-06-539158-7
¥2,255〔税込〕

光と音楽

大江 健三郎 著

講談社

大江健三郎による、知的な障害を持って生まれた長男・光が作曲した私家版楽譜集へ添えた文章、単行本未収録エッセイ、一般読者へ向けた「光と音楽」をめぐる文章から厳選し、ゆかり夫人の絵とともに収録する。

読売新聞 2025/07/20

2025:6./ 268p
978-4-06-539713-8
¥2,420〔税込〕

東大生はなぜコンサルを目指すのか(集英社新書 1265)

レジー 著

集英社

東大生の就職人気ランキングで上位を独占する「コンサル」。この状況の背景にある時代の流れとは? 仕事で成長を課せられて不安を募らせるビジネスパーソンの姿を炙りだし、本当に向かうべき成長とは何かを描き出す。

読売新聞 2025/07/20

2025:5./ 254p
978-4-08-721365-2
¥1,056〔税込〕

錦繍　改版(新潮文庫)

宮本 輝 著

新潮社

読売新聞 2025/07/20

2004:3./ 270p
978-4-10-130702-2
¥693〔税込〕

日本の外交～明治維新から現代まで～(中公新書)

入江　昭 著

中央公論新社

読売新聞 2025/07/20

2000:4./ 187p
978-4-12-100113-9
¥726〔税込〕

明治維新という物語～政府が創る「国史」と地域の「記憶」～(中公新書 2855)

宮間 純一 著

中央公論新社

地域の記憶の前に、事実はいかにして物語になるのか。周防大島、飯能、秋田大館、佐倉など明治維新を記憶に刻む地域を追い、時の政治や地域社会の影響を受け、書き替えられてきた物語の軌跡を描く。

読売新聞 2025/07/20

2025:5./ 264p
978-4-12-102855-6
¥1,034〔税込〕

国際政治～恐怖と希望～　改版(中公新書　108)

高坂　正堯 著

中央公論新社

戦争という人類の「不治の病」を克服するにはどうしたらよいのか。軍縮、経済交流、国際機構などを具体的に検討しながら、国家利益やイデオロギーがからみあう現実世界を分析し、組織的に論じた国際政治の入門書。

読売新聞 2025/07/20

2017:10./ 256p
978-4-12-180108-1
¥946〔税込〕

自民党～政権党の 38 年～(中公文庫)

北岡　伸一 著

中央公論新社

読売新聞 2025/07/20

2008:7./ 394p
978-4-12-205036-5
¥1,026〔税込〕

回想十年<上>　改版(中公文庫　よ 24-8)

吉田　茂 著

中央公論新社

昭和 29 年 12 月に政界を引退した吉田茂が、池田勇人や佐藤栄作らを相手に語った回想記。戦時中の終戦工作に始まり、自ら政権を率いて戦後日本を形成した数年間の政治の内幕を語りつつ、日本が進むべき<保守本流>を訴える。

読売新聞 2025/07/20

2014:11./ 498p
978-4-12-206046-3
¥1,540〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

回想十年<中>　改版(中公文庫　よ 24-9)

吉田　茂 著

中央公論新社

昭和 29 年 12 月に政界を引退した吉田茂が、池田勇人や佐藤栄作らを相手に語った回想記。農地改革、戦後の食糧事情、共産党や労働組合対策、サンフランシスコ講和条約・日米安保条約締結と自衛隊の創設などを振り返る。

読売新聞 2025/07/20

2014:12./ 454p
978-4-12-206057-9
¥1,540〔税込〕

回想十年<下>　改版(中公文庫　よ 24-10)

吉田　茂 著

中央公論新社

昭和 29 年 12 月に政界を引退した吉田茂が、池田勇人や佐藤栄作らを相手に語った回想記。ドッジライン、朝鮮戦争特需などを振り返り、日本が進んで行く道筋を提示する。国会での施政方針演説集、問題発言集等も収録。

読売新聞 2025/07/20

2015:1./ 477p
978-4-12-206070-8
¥1,540〔税込〕

21 世紀の日本政治～グローバル化とデジタル化の中で～

曽我　謙悟 著

東京大学出版会

度重なる政策対応にもかかわらず、グローバル化やデジタル化の波に乗り切れない日本。経済の停滞など閉塞感に覆われている原因を 20 世紀終わりの統治機構改革に求め、そこから抜け出す道筋を考える。

読売新聞 2025/07/20

2025:5./ 344p
978-4-13-033112-8
¥4,290〔税込〕

日本外交の軌跡(NHK ブックス)

細谷 千博 著

ＮＨＫ出版

読売新聞 2025/07/20

1993:2./ 230p

なぜ超一流選手が PK を外すのか～サッカーに学ぶ究極のプレッシャー心理学～

ゲイル・ヨルデット 著

文藝春秋

ゲームの流れのなかでは何も恐れずスーパーゴールを決められる選手が、PK でキックを失敗するのはなぜなのか? 長年 PK を研究してきたスポーツ心理学者が、面白くて役に立つ PK と人生のプレッシャーへの対処法を指南する。

読売新聞 2025/07/20

2025:4./ 349p
978-4-16-391976-8
¥3,080〔税込〕

スミソニアン宇宙大図鑑

ロジャー・Ｄ・ラウニウス 著
河出書房新社
アルテミス計画や火星移住計画をはじめ、人類の宇宙探査の全歴史と近未来の探査計画を網羅。ジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡等の画像やリアルな想像図、科学データとともにビッグバンから未来の宇宙像、宇宙理論まで解説する。

読売新聞 2025/07/20

2025:6./ 399p
978-4-309-25475-3
¥7,920〔税込〕

ユーチューバー(幻冬舎文庫 む-1-39)

村上龍 著
幻冬舎
世界一モテない男の異名を持つ四十路男が、70 歳の大物作家・矢崎に懇願したのは、自ら手がけるユーチューブ番組への出演。快諾した矢崎が語るのは、誰にも明かさなかった女たちとの秘話だった…。表題作など全 4 編を収録。

読売新聞 2025/07/20

2025:6./ 169p
978-4-344-43475-2
¥693〔税込〕

ユーモアの鎖国　新版(ちくま文庫　い 7-4)

石垣 りん 著
筑摩書房
14 歳から銀行で働き、焼けた東京で詩を書いた-。戦後日本を代表する詩人・石垣りんが、転換期にある国を見つめ、人ひとりの自由と時を重ねる日々の強さを真摯かつ鮮やかに綴った自伝的エッセイ集を復刊。

読売新聞 2025/07/20

2025:6./ 308p
978-4-480-44040-2
¥990〔税込〕

日本は自らの来歴を語りうるか

坂本 多加雄 著
筑摩書房
読売新聞 2025/07/20

1994:2./ 225p

朝のピアノ～或る美学者の『愛と生の日記』～

キム・ジニョン 著
ＣＥメディアハウス
日常がシャッターを下ろすように中断されると知った時に、残ったのは「愛」-。多方面で活躍した哲学者/美学者である著者が、人生に幕を下ろす 3 日前までをメモに綴った日記を収録する。

読売新聞 2025/07/20

2025:3./ 270p
978-4-484-22127-4
¥2,420〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ご自愛さん

矢部 太郎 著
ＰＨＰ研究所
なにかあった日も、なにもなかった日も。「ご自愛ください」そう思っているどこかの誰かに届きますように…。心がふっと軽くなる 55 のマンガにショートエッセイを添える。『PHP』連載に描きおろしを加えて書籍化。

読売新聞 2025/07/20

2025:6./ 131p
978-4-569-85938-5
¥1,650〔税込〕

現代政治の思想と行動

丸山　眞男 著
未来社
著者が戦後発表した政治学ないし、現代政治の問題に関連する主要な論文を収めたもの。主要テーマにしたがって 3 部門に整理。第 1 部現代日本政治の精神状況、第 2 部イデオロギーの政治学、第 3 部「政治的なるもの」とその限界。

読売新聞 2025/07/20

2006:8./ 585p
978-4-624-30103-3
¥4,180〔税込〕

大阪ことばの謎(SB 新書　691)

金水敏 著
ＳＢクリエイティブ
私たちはなぜ大阪弁・関西弁的な表現をつい使ってしまうのか? 日本語学・役割語研究の第一人者が、文楽・落語・漫才・インタビュー・マンガ・アニメ・ドラマ等の幅広い資料を参照しながら、ことばと文化をめぐる謎に挑む。

読売新聞 2025/07/20

2025:4./ 255p
978-4-8156-2471-2
¥1,045〔税込〕

ケルト人の夢

マリオ・バルガス＝リョサ 著
岩波書店
20 世紀初頭、コンゴとアマゾンの先住民に対する虐待、植民地主義の罪を告発したアイルランド人がいた。英雄であり、反逆者でもあった 100 年前の外交官を描きながら、評伝よりも大きなスケールで人間の不思議さに迫る。

読売新聞 2025/07/27

2021:10./ 550p
978-4-00-061474-0
¥3,960〔税込〕

緑の家<上>(岩波文庫　赤 796-1)

M.バルガス＝リョサ 著
岩波書店
広大なペルー・アマゾンを舞台に、さまざまな人間たちの姿と現実を浮かび上がらせる、物語の壮大な交響楽。現代ラテンアメリカ文学の傑作。

読売新聞 2025/07/27

2010:8./ 352p
978-4-00-327961-8
¥1,012〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

緑の家<下>(岩波文庫　赤 796-2)

M.バルガス＝リョサ 著

岩波書店

読売新聞 2025/07/27

2010:8./ 494p
978-4-00-327962-5
¥1,364〔税込〕

世界終末戦争<上>(岩波文庫　赤 796-6)

バルガス＝リョサ 著

岩波書店

19 世紀末ブラジルの最貧地帯。キリストの再来をおもわせるコンセリェイロおよびその使徒たちと、彼らを殲滅しようとする中央政府軍の死闘を描く。歴史上実際に起きた「カヌードスの反乱」をモチーフにした大作。

読売新聞 2025/07/27

2025:7./ 558p
978-4-00-327966-3
¥1,507〔税込〕

ブラック・カルチャー〜大西洋を旅する声と音〜(岩波新書　新赤版 2061)

中村 隆之 著

岩波書店

アメリカ大陸に連行された「裸の移住者」は、いかにしてアフリカの声と音の伝統を再創造し、次世代へ繋いだのか。「アフリカ帰還」を主題に、音楽、文学、アート等を横断的に捉え、ブラック・カルチャーの歴史と現在を旅する。

読売新聞 2025/07/27

2025:4./ 254p
978-4-00-432061-6
¥1,056〔税込〕

子どもの自殺はなぜ増え続けているのか(集英社新書 1264)

渋井 哲也 著

集英社

虐待、市販薬依存、いじめ、不適切な指導…。生きづらさを抱える子ども・若者たちのリアルな声に耳を傾けてきたフリーライターが、子どもの自殺が増え続けている背景を詳細にレポートし、対策の課題を考察する。

読売新聞 2025/07/27

2025:5./ 238p
978-4-08-721364-5
¥1,100〔税込〕

鳥類学は、あなたのお役に立てますか?(新潮文庫　か-84-4)

川上 和人 著

新潮社

行く手には火山に台風、サメにハエ。それでも鳥の研究をするのは、楽しいから。他に理由が必要かい? 知られざる理系蛮族「鳥類学者」の著者が、抱腹絶倒、命がけの日々を綴る。『日本経済新聞』連載を加えて文庫化。

読売新聞 2025/07/27

2025:7./ 366p
978-4-10-121514-3
¥781〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

予告された殺人の記録(新潮文庫)

1997:12./ 160p
978-4-10-205211-2
¥649〔税込〕

ガブリエル・ガルシア＝マルケス 著
新潮社
閉鎖的な田舎町でほぼ 30 年前に起きた、幻想とも見紛う殺人事件。凝縮されたその時空間に、差別や妬み、憎悪といった民衆感情、崩壊寸前の共同体のメカニズムを複眼的に捉えつつ、モザイクの如く入り組んだ過去の重層を、哀しみと滑稽、郷愁をこめて録す、熟成の中篇。

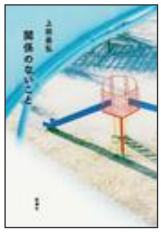
読売新聞 2025/07/27

百年の孤独(新潮文庫　カ-24-2)

2024:7./ 661p
978-4-10-205212-9
¥1,375〔税込〕

ガブリエル・ガルシア＝マルケス 著
新潮社
蜃気楼の村マコンドを開墾しながら、愛なき世界を生きる孤独な一族の百年の物語。目も眩むような不思議な出来事が続き、予言者が書き残した謎が解読された時、一族の波乱の歴史は劇的な最後を迎え…。20 世紀文学の傑作。

読売新聞 2025/07/27



関係のないこと

2025:6./ 157p
978-4-10-336736-9
¥1,980〔税込〕

上田 岳弘 著
新潮社
先輩弁護士の教えを守りキャリアを積んできた僕を、見えない壁が取り囲む。その事実を見ないフリをしたまま、僕はどこまで行けるだろう-。世界に絶望せず軟着陸するための短篇集。『新潮』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

読売新聞 2025/07/27

生活

2025:5./ 440p
978-4-10-352273-7
¥3,300〔税込〕

町屋 良平 著
新潮社
渋谷の隣、代官山の実家暮らしで、バイトと洋服屋めぐりに明け暮れる椿。20 歳の毎日は、友達に囲まれ、彼女ができたりフラれたりと一見刺激的だが…。偶然と必然に彩られたジェットコースター小説。『新潮』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/07/27

コレラの時代の愛(Obra de García Márquez)

2006:10./ 526p
978-4-10-509014-2
¥3,850〔税込〕

ガブリエル・ガルシア＝マルケス 著
新潮社
51 年 9 ヶ月と 4 日、男は女を待ち続けていた…。コロンビアで内戦が疫病のように猖獗した時代を背景に、困惑と不安、記憶と期待がさまざまに交錯する。愛が愛であることの限界に、細緻かつ壮大に挑んだ長篇。

読売新聞 2025/07/27

わが悲しき娼婦たちの思い出(Obra de García Márquez)

ガブリエル・ガルシア＝マルケス 著

新潮社

90 歳を迎える記念すべき一夜を、処女と淫らに過ごしたい－。かつては夜の巷の猛者として鳴らした男と、14 歳の少女との成り行きは?川端の「眠れる美女」に想を得た、悲しくも心温まる波乱の愛の物語。

読売新聞 2025/07/27

2006:9./ 144p
978-4-10-509017-3
¥1,980〔税込〕

琉球処分～「沖縄問題」の原点～(中公新書　2860)

塩出 浩之 著

中央公論新社

日中の両属国家だった琉球王国を日本が強制併合した「琉球処分」。島内の組織的抵抗、清国への救援要請など併合の過程とその後を精緻に追い、清国や西洋諸国を巻き込み東アジアに新秩序をもたらした「沖縄併合」の全貌を描く。

読売新聞 2025/07/27

2025:6./ 256p
978-4-12-102860-0
¥1,100〔税込〕

脳は世界をどう見ているのか(ハヤカワ文庫 NF 617)

ジェフ・ホーキンス 著

早川書房

細胞の塊にすぎない脳に、なぜ知能が生じるのか。ビジネスと研究、AI と神経科学を行き来する異端児が、脳と人工知能の理解に革命を起こす「1000 の脳理論」を解説する。

読売新聞 2025/07/27

2025:7./ 406p
978-4-15-050617-9
¥1,540〔税込〕

ガルシア=マルケス中短篇傑作選(河出文庫　マ 11-1)

ガブリエル・ガルシア＝マルケス 著

河出書房新社

世界文学の最高峰が生みだした永遠の傑作たち。「大佐に手紙は来ない」「純真なエレンディラと邪悪な祖母の信じがたくも痛ましい物語」など、多面的な魅力を凝縮した新訳アンソロジー。

読売新聞 2025/07/27

2022:7./ 322p
978-4-309-46754-2
¥1,320〔税込〕

街と犬たち(光文社古典新訳文庫　KA ハ 11-1)

バルガス・ジョサ 著

光文社

厳格な規律の裏で不埒な行いが横行するペルーの軍人学校。ひとつの密告がアルベルトや<奴隷>、ジャガーら少年たちのいびつな連帯を揺るがし、一発の銃弾に結びついて…。ノーベル賞作家バルガス・ジョサの長編デビュー作。

読売新聞 2025/07/27

2022:6./ 675p
978-4-334-75460-0
¥1,694〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

エレンディラ(ちくま文庫)

ガブリエル・ガルシア・マルケス 著

筑摩書房

読売新聞 2025/07/27

1988:12./ 205p
978-4-480-02277-6
¥638〔税込〕

「色のふしぎ」と不思議な社会～2020 年代の「色覚」原論～　新版(ちくま文庫　か 57-2)

川端 裕人 著

筑摩書房

「正常/異常」に線引きする色覚検査が復活したのはなぜ? 先天色覚異常の当事者である科学作家が、専門家と目される眼科医、色覚にかかわる研究者などを取材し、先端科学の色覚観に迫る。新たな知見と考察を加えて文庫化。

読売新聞 2025/07/27

2025:7./ 446p
978-4-480-44046-4
¥1,320〔税込〕

アウトドア料理大全

小雀　陣二 著

平凡社

アウトドア料理の第一人者が、これまでのアウトドア経験のすべてを詰め込んだ集大成。焚き火料理、炭火料理、バーナー料理といった火種ごとにレシピを詳しく紹介。こだわりの道具についても選び方や使い方を解説。

読売新聞 2025/07/27

2025:6./ 255p
978-4-582-63231-6
¥2,970〔税込〕

分析建築コンペ・プロポーザル～要項・提案・グラフィックを読み解く～

坂牛 卓／榊原 充大／平瀬 有人／山崎 泰寛 著

学芸出版社

公共建築の建築コンペ・プロポーザルから 10 事例を厳選し、募集要項を読み解くと同時に、選定者・ファイナリストの提案書を分析。質の高い建築が発注者と設計者のコミュニケーションから生まれるメカニズムを明らかにする。

読売新聞 2025/07/27

2025:4./ 159p
978-4-7615-3310-6
¥3,960〔税込〕

凍れる心臓

共同通信社社会部移植取材班 著

共同通信社

日本の移植新時代が幕を開けた 97 年夏に入手された「秘」と記された札幌地検の捜査報告書を基に、30 年目を迎えた和田移植をあらためて検証。社会部記者が数々の疑惑を解き明かし、将来の医療を問う渾身のルポルタージュ。

読売新聞 2025/07/27

1998:4./ 301p

迷ったら笑っといてください

濱田 祐太郎 著
太田出版
12 年間芸人をやってきて、思うところはやっぱりいろいろあります-。お笑い、テレビ、障害…。「R-1 ぐらんぷり 2018」で優勝した盲目の芸人・濱田祐太郎が、自身に見えている景色を語った初エッセイ集。

読売新聞 2025/07/27

2025:6./ 194p
978-4-7783-4036-0
¥1,980〔税込〕

水族館飼育員のただならぬ裏側案内

なんかの菌 著
集英社インターナショナル
うごめく生きもの、暗躍する飼育員。ようこそ、水槽の奥のディープな世界へ! 元水族館職員が、4 コママンガやイラストを交え、水族館の裏側を紹介しつつ、生きものや水族館を違った見方で楽しむ手がかりを提案する。

読売新聞 2025/07/27

2025:7./ 127p
978-4-7976-7466-8
¥1,650〔税込〕

倫理学講義<第 1 巻>

小浜 善信 編
山田 晶 著
知泉書館
昭和 60 年度の南山大学講義「綜合科目 2」を書籍化。ナルシシズムと劣等感に苛まれた人物を物語風に語りながら、「真の自己」を知らず、あやまちと不幸に見舞われる姿を鮮やかに描いた「A 子の話」「捨八の話」などを収録。

読売新聞 2025/07/27

2025:2./ 496p
978-4-86285-428-5
¥3,850〔税込〕

倫理学講義<第 2 巻>

小浜 善信 編
山田 晶 著
知泉書館
アウグスティヌスとトマス・アクィナスを中心に中世哲学に関する多数の業績を残した山田晶が、昭和 60 年から平成 8 年まで、南山大学などで行った講義用原稿をもとに書籍化。第 2 巻は、愛の諸相について語る。

読売新聞 2025/07/27

2025:5./ 418p
978-4-86285-434-6
¥3,850〔税込〕

古代ギリシア人の歴史(刀水歴史全書　103)

桜井 万里子 著
刀水書房
ギリシア語を母語とした人たちによって、地中海の島々と山々から文明は生まれた-。前 1000 年頃から前 322 年までの古代ギリシア人の歴史を通時的に記述。彼らの試行錯誤、創意工夫、そして古典作品の魅力を伝える。

読売新聞 2025/07/27

2025:5./ 410p
978-4-88708-445-2
¥4,400〔税込〕

孤島論

倉石信乃 著

インスクリプト

島とは何か。遠く置き去りにされた土地を経巡り、多数の写真、歴史地誌、文学作品を紐解きながら、その風景に身を晒しつつ綴る、類のない思考の軌跡。残置された風景を撮り続ける現代写真家たちを取り上げた論考も収録。

読売新聞 2025/07/27

2025:4./ 409p
978-4-900997-94-3
¥3,740〔税込〕

無意味なんかじゃない自分～ハンセン病作家・北條民雄を読む～

荒井 裕樹 著

講談社

川端康成にその才能を認められながら、ハンセン病によって 23 歳でこの世を去った作家・北條民雄。名作「いのちの初夜」を生み出した若き小説家は、なぜ病を抱えてなお書き続けたのか。気鋭の文筆家が、彼の人生を辿る。

日本経済新聞 2025/07/05

2025:5./ 265p
978-4-06-539571-4
¥2,200〔税込〕

密やかな炎

セレステ・イング 著

早川書房

1998 年、オハイオ州の閑静な住宅街。リチャードソン家の邸宅が燃えた。家族それぞれの部屋に火をつけた跡があったという。厳格な母エレナの唯一の悩みは反抗的な末娘イジーだったが、イジーは姿を消していて…。

日本経済新聞 2025/07/05

2025:5./ 383p
978-4-15-210425-0
¥2,750〔税込〕

失敗の本質<戦場のリーダーシップ篇>

野中 郁次郎、杉之尾 宜生、戸部 良一、土居 征夫、河野 仁、山内 昌之、菊澤 研宗 著

ダイヤモンド社

リーダーに求められる現場感覚・大局観・判断力とは? 昭和期陸軍の病理、天才参謀・石原莞爾の蹉跌など、日本軍の指導者の失敗と数少ない成功を通して、現在のリーダーや組織にとっての有益な教訓を引き出す。

日本経済新聞 2025/07/05

2012:7./ 318p
978-4-478-02155-2
¥1,980〔税込〕

安全保障の国際政治学～焦りと傲り～　第 2 版

土山 實男 著

有斐閣

なぜ国際政治学は、安全保障に多大な関心を寄せてきたのか。リアリズム、抑止、危機管理、同盟など、安全保障を考える際に基礎となる概念や政策を、歴史的事象を事例に考察する。戦争原因の理論と事例などを加えた第 2 版。

日本経済新聞 2025/07/05

2014:4./ 494p
978-4-641-14903-8
¥3,520〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

まじめに動物の言語を考えてみた

アリク カーシェンバウム 著

柏書房

動物にはヒトと同様に言語はあるのだろうか。では、何のために動物はしゃべるのか。オオカミ、イルカ、インコなどを取り上げ、著者自身のフィールドワークでの観察をもとに、動物の行動を科学的に明らかにする。

日本経済新聞 2025/07/05

2025:5./ 326p
978-4-7601-5606-1
¥2,860〔税込〕

修理する権利～使いつづける自由へ～

アーロン・パーザナウスキー 著

青土社

「壊れたら買い替え」へ消費者を駆り立てる資本主義社会には、修理を阻む巧妙なカラクリが隠されていた。米国やヨーロッパで巻き起こっている「修理する権利」運動の現状を、縦横無尽に分析する。

日本経済新聞 2025/07/05

2025:4./ 464p
978-4-7917-7695-5
¥4,840〔税込〕

決定の本質～キューバ・ミサイル危機の分析～<1>　第 2 版(NIKKEI BP CLASSICS)

グレアム・アリソン、フィリップ・ゼリコウ 著

日経ＢＰ社

米ソ核戦争はどうやって回避されたのか。1962 年 10 月の危機の過程を 3 モデルで分析した政策決定論、国際関係論の名著。1 は、「合理的アクター」「組織行動」を解説し、合理的アクター・モデルによる分析を掲載する。

日本経済新聞 2025/07/05

2016:3./ 417p
978-4-8222-5128-4
¥2,640〔税込〕

現代の軍事戦略入門～陸海空から PKO、サイバー、核、宇宙まで～ 増補新版

エリノア・スローン、奥山　真司、平山　茂敏 著

芙蓉書房出版

古典戦略から現代戦略までを軍事作戦の領域別にまとめた入門書。マハン、コーベットら「古典」的人物から、現代の専門家まで幅広く取り上げる。PKO に関する新章を追加し、現代の軍事情勢を反映した増補新版。

日本経済新聞 2025/07/05

2019:3./ 391p
978-4-8295-0757-5
¥3,080〔税込〕

Old Tackle Anglers～味のある釣り、味のある人生。～<2>(別冊つり人 Vol.600)

つり人社

小説家・開高健と ABU を大特集。昭和 49 年酒田港のスズキ釣りをめぐる開高健と地元釣具店主との手紙のやりとり(往復書簡)を初公開。ABU は超希少モデルを含む歴代アンバサダー5000 番を解説する。

日本経済新聞 2025/07/05

2025:6./ 144p
978-4-86447-664-5
¥2,640〔税込〕

凡事徹底～平凡を非凡に努める～(活学叢書)

鍵山　秀三郎 著

致知出版社

「掃除などよりもっと経済性の高いことをするべきだ」そんな声にもめげず 30 余年自ら掃除をやり続けた社長。微差の積み重ねが絶対差となる。ローヤル創業者がその信念を語る 1 冊。

日本経済新聞 2025/07/05

1994:11./ 160p
978-4-88474-348-2
¥1,320〔税込〕

桐生市事件～生活保護が歪められた街で～

小林 美穂子／小松田 健一 著

地平社

保護費を毎日 1000 円だけ手渡し、残りは金庫にしまうなど、信じがたい運用が発覚した桐生市の生活保護行政。助けを求める市民を威圧し、支給を徹底的に削る姿勢が明らかになり…。支援と取材の現場から迫ったルポ。

日本経済新聞 2025/07/05

2025:3./ 206p
978-4-911256-16-9
¥1,980〔税込〕

ベルリン・フィル～栄光と苦闘の 150 年史～(中公新書　2856)

芝崎 祐典 著

中央公論新社

世界最高峰のオーケストラと称されるベルリン・フィルハーモニー。1882 年の創設からナチ協力、冷戦後の革新まで解説。150 年の裏面ドイツ史に耳をすまし、社会にとって音楽とは何かを問う。関連年表付き。

日本経済新聞 2025/07/05、毎日新聞 2025/07/05

2025:5./ 296p
978-4-12-102856-3
¥1,155〔税込〕

パパイアから人生

夏井 いつき 著

小学館

アタシャ、人生どんだけ転び続けてきたんや-。俳人・夏井いつきが、目まぐるしい日常の喜び、悲しみ、驚きを俳句と共に綴った 109 編のエッセイ。『女性セブン』連載に書き下ろしを加え書籍化。「瓢箪から人生」の姉妹本。

日本経済新聞 2025/07/05、毎日新聞 2025/07/05、読売新聞 2025/07/20

2025:6./ 367p
978-4-09-389810-2
¥1,870〔税込〕

日本人拉致(岩波新書　新赤版 2064)

蓮池 薫 著

岩波書店

突如自由を奪われ、独裁体制下で生きた 24 年。なぜ北朝鮮に拉致されたのか。「マインドコントロール」「革命教育」の現実とは。国家的犯罪行為に翻弄された当事者が、知り得たすべてを記す。『世界』連載を加筆修正。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:5./ 228p
978-4-00-432064-7
¥1,034〔税込〕

カクテル・パーティー(岩波現代文庫　文芸 189)

大城 立裕 著

岩波書店

米国統治下の沖縄で日本人、沖縄人、中国人、米国人の 4 人が繰り広げる親善パーティー。そのとき米兵による高校生レイプ事件が起こり、国際親善の欺瞞が暴露されていく－。

日本経済新聞 2025/07/12

2011:9./ 322p
978-4-00-602189-4
¥1,364〔税込〕

see you again

小林 篤 著

講談社

1994 年 11 月、13 歳で命を絶った中学生が遺書に綴った、凄惨ないじめ。日本中が涙した遺書に、ルポライター小林は違和感を覚えた。それが 30 年に及ぶ謎解きの旅の始まりだった…。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:6./ 924p
978-4-06-537728-4
¥4,950〔税込〕

平等とは何か～運、格差、能力主義を問いなおす～(中公新書　2846)

田中 将人 著

中央公論新社

人生は運と能力しだい? 不平等の何がわるいのか。富や権力の偏り、少数支配を超えられるか。ロールズ、サンデル、ピケティらの熱き議論をたどり、現状打破の道筋を示す。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:3./ 248p
978-4-12-102846-4
¥990〔税込〕

ヨシモトオノ

吉本 ばなな 著

文藝春秋

天井の木目に小さな顔があった。何度見ても顔だった。知らないおじさんの顔…。日常の中でふと見える世界の裂け目。怖く、美しく、心の中に小さな不思議と希望の光を灯す怪談を集めた、吉本ばなな版遠野物語。全 13 編を収録。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:5./ 212p
978-4-16-391984-3
¥1,760〔税込〕

社会分断と陰謀論～虚偽情報があふれる時代の解毒剤～

雨宮　純／烏谷　昌幸／長迫　智子／上野　庸平／岡部　友樹／辻　隆太朗／真殿　琴子／水野　俊平 著

文芸社

トランプ時代の「陰謀論が武器化・日常化した」世界を読み解く論考集。日本・韓国・アメリカ・フランス・トルコ・レバノンの分断と陰謀論、中国・ロシアの武器と化す Q アノン陰謀論などを考察する。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:5./ 285p
978-4-286-26283-3
¥2,200〔税込〕

<叱る依存>がとまらない

村中 直人 著

紀伊國屋書店出版部

「叱る」には依存性があり、エスカレートしていく。その理由は脳の「報酬系回路」にある。「叱る」という行為の本質を科学の知見や社会で起きている出来事をもとに見つめ直し、<叱る依存>を回避するためのヒントを伝授する。

日本経済新聞 2025/07/12

2022:2./ 205p
978-4-314-01188-4
¥1,760〔税込〕

東京失格

アフロ 著

実業之日本社

MOROHA・アフロが、思春期の葛藤から、活動休止中の現在に至るまで、自身の体験をユーモアと鋭さを交えて綴った、全身全霊の“言葉のドキュメント”。『信濃毎日新聞』連載を再構成。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:6./ 267p
978-4-408-65158-3
¥1,760〔税込〕

能力で人を分けなくなる日～いのちと価値のあいだ～(あいだで考える)

最首 悟 著

創元社

重度障害者の娘との暮らし、やまゆり園事件の植松青年への手紙、通いつづけた水俣の地で知ったこと…。86 歳の著者が 10 代の 3 人と語り合い、いのちに価値づけはできるのか、共に生きるとはどういうことかを考える。

日本経済新聞 2025/07/12

2024:4./ 157p
978-4-422-36016-4
¥1,540〔税込〕

強いビジネスパーソンを目指して鬱になった僕の弱さ考

井上慎平 著

ダイヤモンド社

強いビジネスパーソンを目指して鬱になった著者が考えた、資本主義社会の「しんどさ」から自分を守る思考法。どん底から這い上がる過程でどんなことを考えたのか、どんな景色を見たのか、今どんな景色が見えているのかを綴る。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:3./ 303p
978-4-478-12037-8
¥1,980〔税込〕

新しいリベラル～大規模調査から見えてきた「隠れた多数派」～(ちくま新書　1861)

橋本 努／金澤 悠介 著

筑摩書房

21 世紀以降の日本のリベラルがどのような変遷をたどったのかを分析するとともに、7000 人を対象とする社会調査から、日本において最多数を占めることが明らかとなった「新しいリベラル」の実態と可能性を探求する。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:6./ 350p
978-4-480-07692-2
¥1,320〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

頂点都市(創元 SF 文庫　SF ラ 7-1)

ラヴァンヤ・ラクシュミナラヤン 著

東京創元社

荒廃した世界で、かつてのベンガルールの街は能力主義のテクノクラシー統治体制がしかれ、頂点都市と改名して繁栄を極める。生産性とソーシャルスコアで人間の価値が決まるこの街で、排除された下層民の間では叛逆の胎動が…。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:6./ 478p
978-4-488-62411-8
¥1,650〔税込〕

フュージョンストラテジー～リアルタイムデータと AI が切り拓く産業の未来～

ビジャイ・ゴビンダラジャン、ベンカット・ベンカトラマン 著

東洋経済新報社

戦略とイノベーションの 2 人の世界的権威による本格的経営書。リアルタイムデータと AI を、製造業と融合させる新たなビジネス戦略を紹介する。特別対談、日本企業の取組み事例も収録。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:4./ 402p
978-4-492-55847-8
¥3,080〔税込〕

アフリカの地政学(文庫クセジュ　1070)

ソニア・ル・グリエレック 著

白水社

アフリカの政治的不安定や資源争奪、テロリズム、都市化、人口増加などの課題を、植民地支配といった過去を踏まえつつ解説。外国勢力の影響や、アフリカ連合による地域主導の動きなど、現在の国際関係の中での立ち位置も示す。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:5./ 170p
978-4-560-51070-4
¥1,540〔税込〕

学歴社会は誰のため(PHP 新書　1426)

勅使川原 真衣 著

ＰＨＰ研究所

なぜ学歴社会はなくならないのか? なぜ「能力」を測るのはこんなにも難しいのか? 教育社会学を修め、企業の論理も熟知する組織開発の専門家が、学歴社会の謎に迫り、脱・学歴社会を実践するための糸口を探る。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:3./ 238p
978-4-569-85881-4
¥1,155〔税込〕

奪われた集中力～もう一度“じっくり”考えるための方法～

ヨハン・ハリ 著

作品社

以前に比べて仕事も読書も集中できない。でも、スマホは片時も手放せない。私たちの集中力はただ失われたのではなく「奪われ」ていること、そして必要なのは社会全体で「取り戻す」取り組みであることを明らかにする。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:6./ 349p
978-4-86793-090-8
¥2,970〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

新沖縄文学　96 号

沖縄タイムス社

沖縄のいまを知る伝説の雑誌 32 年ぶり刊行!戦後 80 年の沖縄のいまを集め『新沖縄文学』96 号を発行します。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:2./ 328p
978-4-87127-318-3
¥2,200〔税込〕

女の顔をした中世～ベルギー・オランダの都市と女性たち～

イェレ・ハーメルス、アンドレア・バルディン、シャネル・ドゥラメイユール 編

八坂書房

経済的繁栄を背景に活気づく中世後期のネーデルラント諸都市で、女性たちはそれぞれの人生と向き合ったすえに、どのような老後を迎えたのか。厖大な史料から、様々な立場の女性たちの肉声を再現。女性史研究に新地平をひらく。

日本経済新聞 2025/07/12

2025:5./ 358p
978-4-89694-378-8
¥4,950〔税込〕

宮内庁長官～象徴天皇の盾として～(講談社現代新書　2776)

井上 亮 著

講談社

象徴天皇制が実施されておおよそ 80 年。この間に生じたさまざまな課題にたいして、各時代の宮内庁長官はどう対処してきたのか。歴代 10 人の苦闘を追い、「象徴」の形成過程と戦後日本のあゆみを明かす。

日本経済新聞 2025/07/12、朝日新聞 2025/07/19

2025:5./ 286p
978-4-06-539803-6
¥1,210〔税込〕

大坂の歴史～難波宮・荘園・天下の台所～

五味　文彦 著

吉川弘文館

巨大古墳の築造から大坂城築城、上方文化の広がり、鳥羽・伏見の戦いまで、大阪湾に面する摂津・河内・和泉の歴史を平易に解説。独自の社会と文化の変遷を探り、今後の大阪を考える。

日本経済新聞 2025/07/12、読売新聞 2025/07/20

2025:5./ 292p
978-4-642-08481-9
¥2,530〔税込〕

中華料理と日本人～帝国主義から懐かしの味への 100 年史～(中公新書 2861)

岩間 一弘 著

中央公論新社

帝国主義の時代に広まり、戦後の日本人の心と体を癒してきた中華料理。文化人、実業家、軍人、料理人たちの情熱と葛藤に光をあて、日本の中華料理 100 年の軌跡を世界史的な視点から描いた、食文化の物語。

日本経済新聞 2025/07/12、毎日新聞 2025/07/19

2025:6./ 288p
978-4-12-102861-7
¥1,166〔税込〕

書物の時代～読書がひらいた日本近世～

若尾 政希 著
岩波書店
17 世紀、日本で商業出版が始まり、人びとは本によって知や情報を共有した。農書・軍書・医薬書・天文暦書などの具体的な分析を通して、書物による近世の社会変容を明らかにし、広い視野のもと「書物の思想史」を提唱する。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:5./ 388p
978-4-00-061699-7
¥3,960〔税込〕

平家物語<1>(岩波文庫　黄 113-1)

岩波書店
合戦記に人物譚、和漢の故事を織りまぜた、平家の全盛から滅亡までの物語は、鎌倉時代から現代にいたるまで、多くの人々に親しまれてきた。第 1 冊には巻 1 から巻 3 までを収録。平家全盛の時代。新日本古典文学大系本の文庫化。

日本経済新聞 2025/07/19

1999:7./ 398p
978-4-00-301131-7
¥1,111〔税込〕

空海

安藤 礼二 著
講談社
日本固有の宗教、文化、芸術表現の大いなる源泉…「空海」とは何者なのか。日本思想史上最大のオリジネーター/スーパースター空海の思想を解きほぐし、生の軌跡を明らかにする記念碑的大著。『群像』連載を加筆修正。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:5./ 558p
978-4-06-539482-3
¥4,950〔税込〕

資本主義の終焉と歴史の危機(集英社新書 0732)

水野 和夫 著
集英社
長期にわたるゼロ金利が示すのは、投資しても利潤の出ない資本主義の「死」。この現実を無視して、成長戦略を追求すれば日本は沈む! 大転換期に立つ今、日本が取るべき道を展望する。

日本経済新聞 2025/07/19

2014:3./ 218p
978-4-08-720732-3
¥902〔税込〕

日めくり怪談(集英社文庫　よ 34-1)

吉田 悠軌 著
集英社
祖父が死の前夜にかぶったお面、とあるキャンプ場で繰り返される惨劇、子どもの頃に現れたずぶ濡れの母子の正体、大人になる前に死ぬと予言された少女を救った秘策…。1 話 5 分で読める短い怪談、全 62 話を収録する。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 223p
978-4-08-744787-3
¥638〔税込〕

乙女の密告(新潮文庫　あ-75-1)

赤染 晶子 著

新潮社

ある外国語大学で流れた教授と女学生にまつわる黒い噂。乙女達が騒然とするなか、みか子はスピーチコンテストの課題「アンネの日記」のドイツ語のテキストの暗記に懸命になる。やがて噂の真相も明らかとなり…。

日本経済新聞 2025/07/19

2013:1./ 102p
978-4-10-127351-8
¥506〔税込〕

フェルマーの最終定理(新潮文庫)

サイモン・シン 著

新潮社

日本経済新聞 2025/07/19

2006:5./ 495p
978-4-10-215971-2
¥1,045〔税込〕

政治資金規正法～政治活動と民主主義のルールブック～(中公新書　2858)

竹内 彰志 著

中央公論新社

議員の収入と支出の実態や、歴史的経緯を踏まえ、政治資金規正法の見取り図を提示。政治資金パーティー等の事例を通じ、具体的な金銭の動きを解説し、情報公開のあり方や政治活動で注意すべき点など、今後の課題と展望を記す。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 232p
978-4-12-102858-7
¥1,034〔税込〕

北の森に舞うモモンガ～「移」「食」「住」を守る～

柳川　久 著

東京大学出版会

野生動物のアイドル、つぶらな瞳のかわいいモモンガ。私たちは、かれらとどのように共存していけばよいのか。モモンガの「移」「食」「住」、直面している危機などを、実例を交え紹介する。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 136p
978-4-13-063964-4
¥3,080〔税込〕

これからの「正義」の話をしよう～いまを生き延びるための哲学～(ハヤカワ文庫 NF 376)

マイケル・サンデル 著

早川書房

「1 人を殺せば 5 人が助かる。あなたはその 1 人を殺すべきか?」。正解のない究極の難問に挑み続ける、ハーバード大学の超人気哲学講義"JUSTICE"。NHK「ハーバード白熱教室」とともに社会現象を巻き起こした大ベストセラー、待望の文庫化。

日本経済新聞 2025/07/19

2011:11./ 475p
978-4-15-050376-5
¥1,386〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

世界秩序が変わるとき～新自由主義からのゲームチェンジ～(文春新書 1478)

齋藤 ジン 著

文藝春秋

「新自由主義」が崩壊し、勝者と敗者がひっくり返る“ゲームチェンジ”が起きている-。世界が激変する中で日本復活のチャンスが到来している。どうすれば千載一遇の機会を摑めるかを、伝説のコンサルタントが明かす。

日本経済新聞 2025/07/19

2024:12./ 255p
978-4-16-661478-3
¥1,155〔税込〕

赤ちゃんは世界をどう学んでいくのか～ヒトに備わる驚くべき能力～(光文社新書　1364)

奥村優子 著

光文社

利他的で、学習の天才で、計算もできて、優秀な人が好きな、赤ちゃん。気鋭の赤ちゃん研究者にして二児の母でもある著者が、最先端科学の知見を通じて人間の本質とは何かを問い、希望の未来を描く。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 240p
978-4-334-10669-0
¥1,012〔税込〕

ミック・エイヴォリーのアンダーパンツ

乗代雄介 著

国書刊行会

乗代雄介がデビュー前から 15 年以上にわたって書き継いできたブログを著者自選・全面改稿のうえ書籍化。67 編を精選した「創作」、長編エッセイ「ワインディング・ノート」、書き下ろし小説「虫麻呂雑記」を収録。

日本経済新聞 2025/07/19

2020:7./ 645p
978-4-336-06588-9
¥3,630〔税込〕

統計学が最強の学問である～データ社会を生き抜くための武器と教養～

西内　啓 著

ダイヤモンド社

統計学の主要 6 分野「社会調査法」「疫学・生物統計学」「心理統計学」「データマイニング」「テキストマイニング」「計量経済学」を横断的に解説。最新の事例と研究結果をもとに、新たな切り口から統計学の世界を案内する。

日本経済新聞 2025/07/19

2013:1./ 304p
978-4-478-02221-4
¥1,980〔税込〕

ムーア人による報告(エクス・リブリス)

レイラ・ララミ 著

白水社

1528 年にフロリダに上陸したカスティーリャ王国の探検隊。新大陸で 8 年放浪しメキシコにたどり着いたとき、生存者は 1 人の奴隷を含むわずか 4 人で…。実在する報告書を元に、実在した奴隷の視点から冒険を再構築した物語。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 421p
978-4-560-09096-1
¥4,620〔税込〕

実践経営哲学(PHP 文庫)

松下 幸之助 著

ＰＨＰ研究所

本書は松下幸之助「心得帖シリーズ」の五作目である。本書では松下がささやかな形で始めた事業を、一代にして世界的企業に育て上げた要因を自ら分析して、二十項目にまとめたものである。

日本経済新聞 2025/07/19

2001:5./ 172p
978-4-569-57562-9
¥836〔税込〕

21 世紀の資本

トマ・ピケティ 著

みすず書房

民間財産に基づく市場経済は、放置するなら、強力な収斂の力を持っている。だが一方で、格差拡大の強力な力もそこにはある-。18 世紀以来の富と所得の分配動学をめぐる歴史的知識の現状を明らかにし、今後の教訓を示す。

日本経済新聞 2025/07/19

2014:12./ 760p
978-4-622-07876-0
¥6,050〔税込〕

おこさま人生相談室～おとなのお悩み、おこさまたちに聞いてみました～

小林 エリカ 著

柏書房

月旅行に行きたい、部屋の片づけが苦手、父を老人ホームに入れたい…。おとなたちの本気の悩みに、102 人のおこさまが本気で向き合う人生相談。『MilK MAGAZINE japon』連載に加筆・修正。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:5./ 345p
978-4-7601-5633-7
¥2,200〔税込〕

「メンヘラ」の響き～幸せと不幸せが鳴り響く濁り江～

諸井 克英 著

彩流社

規範を逸脱する若者の願望を「音楽」に探る! 社会心理学的概念を駆使し事象を論じてきた著者が、SNS の流行語に過ぎなかった「メンヘラ」という語の意味を洗い直し、若者の深層心理を抉る。『生活科学』掲載を大幅に改編。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 128p
978-4-7791-3054-0
¥2,750〔税込〕

生物学を進化させた男エドワード・O・ウィルソン

リチャード・ローズ 著

草思社

アリの複雑な生態の解明に多大な貢献をし、「社会生物学」で自然科学と人文学に一大論争を巻き起こし、「バイオフィリア」で生物保護の重要性を訴えた生物学界の最重要人物ウィルソン。その巨大な功績の全容を余さず紹介する。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:6./ 400p
978-4-7942-2780-5
¥3,300〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

せんきょに行こう!〜えらぶたのしさ えらべるしあわせ〜(コドモの大學 3)

有働由美子 著

ハゴロモ

妖怪の世界に迷い込んでしまった子どもたち。元の世界に帰れるかどうかは、“妖怪の村長選挙”の行方次第…!? 選挙の本質を親子で楽しく学べる絵本。進級テスト、絵探しも掲載。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:7./ 31p
978-4-8012-0789-9
¥1,870〔税込〕

二番目の悪者

林　木林 著

小さい書房

これが全て、作り話だと言い切れるだろうか-。金色のたてがみを持つ金のライオンは王様になりたかった。だが、街外れに住む心のやさしい銀のライオンが、次の王様候補だという噂を聞き、銀のライオンの悪い噂を広めて歩き…。

日本経済新聞 2025/07/19

2014:11./ 61p
978-4-907474-01-0
¥1,540〔税込〕

じゃむパンの日

赤染晶子 著

ｐａｌｍｂｏｏｋｓ

時を超えて。生まれ育った京都へのおもい。こぼれだす笑い-。芥川賞作家で、2017年に早逝した著者によるエッセイ集。表題作をはじめ、「知ってるねん」など全55篇を収録。岸本佐知子との「交換日記」も併録。

日本経済新聞 2025/07/19

2022:12./ 202p
978-4-910976-00-6
¥1,980〔税込〕

初子さん

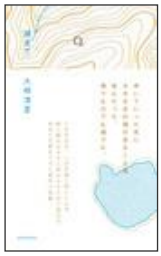
赤染晶子 著

ｐａｌｍｂｏｏｋｓ

あんパンとクリームパンしか売っていないパン屋に、初子さんは下宿している。パン屋の2階で、初子さんは今日もひとりミシンを踏む-。表題作のほか、「うつつ・うつら」「まっ茶小路旅行店」を収録する小説集。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:4./ 187p
978-4-910976-04-4
¥2,200〔税込〕



湖まで

大崎清夏 著

ｐａｌｍｂｏｏｋｓ

歩いていった先に大きな水の塊があることは安心だった。海でも川でも湖でも。ひとと出会い、土地に触れ、わたしはわたしになっていく-。いまを生き、いまを描く詩人による、全5篇の連作小説集。

日本経済新聞 2025/07/19

2025:5./ 157p
978-4-910976-05-1
¥2,200〔税込〕

IMON を創る

いがらしみきお 著
石原書房
パソコンに OS「TRON」があるように、パソコンを使う人間の側にも OS「IMON」を創ろう! いがらしみきおによる、幻の予言的文明論にして不朽の人間哲学を、30 年の時を経て復刊。

日本経済新聞 2025/07/19

2023:12./ 230p
978-4-911125-01-4
¥1,980〔税込〕

改元

畠山丑雄 著
石原書房
改元の年の異動で山奥の町に着任した公務員の「私」は、集落に伝わる惟喬親王が見たという龍の夢の伝説を追って、この国のもうひとつの姿を目撃し…。表題作と「死者たち」を収録する。『群像』『文藝』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2025/07/19

2024:9./ 227p
978-4-911125-02-1
¥1,980〔税込〕

次期戦闘機の政治史～選定過程にみる日米欧の攻防～

増田 剛 著
千倉書房
かつて日米対立の原因となった戦闘機の共同開発。なぜ次期「F3」のパートナーは米ではなく英伊なのか? 「戦闘機と政治の関わり」を追い続けてきた記者が、共同開発をめぐる日米欧の対立と協調の歴史をたどる。

日本経済新聞 2025/07/19、朝日新聞 2025/07/26

2025:5./ 247p
978-4-8051-1348-6
¥3,080〔税込〕

蜘蛛～なぜ神で賢者で女なのか～(講談社選書メチエ　826)

野村 育世 著
講談社
清少納言も絶賛し、神仏のお使いとして崇められた存在は、いつから嫌われ者になったのか? 人と蜘蛛の不思議な関係を貴重な図版・史料とともに丁寧に考察。日本の伝統文化の中で、蜘蛛を見る目の変遷を探る。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:6./ 317p
978-4-06-539550-9
¥2,970〔税込〕

男女賃金格差の経済学

大湾秀雄 著
日経ＢＰ社
賃金における真の男女格差をいかに測り、改善するか。男女格差解消のために、理論的なフレームワーク、社会科学研究で明らかになったエビデンスの概要、データに基づく意思決定の方法論などを解説する。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:6./ 241p
978-4-296-11836-6
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

終活の落とし穴(日経プレミアシリーズ　523)

西川 満則／福村雄一／大城京子／小島秀樹 著

日経ＢＰ社

抗がん剤治療や延命治療はどこまですべき? 認知症になっても遺言は書ける? 自分の死後、ペットはどうなる? 医療、相続、お金、介護など、「終活」についての気になる疑問に専門家が答える。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:1./ 238p
978-4-296-11940-0
¥990〔税込〕

実家の相続がまとまらない!

天野隆／伊藤かよこ／税理士法人レガシィ 著

青春出版社

急死した和菓子屋店主の父と、遺された 3 人の子どもたち。それぞれの利害と嫉妬、そして泥沼の争いが始まり…。相続の流れや手続きとモメない秘訣を、ストーリー形式で解説する。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:2./ 219p
978-4-413-23393-4
¥1,760〔税込〕

相続のめんどくさいが全部なくなる本～相続専門税理士が教える～

前田智子 著

ダイヤモンド社

こっそりヘソクリをしているけど、どうなるの? 遺言書って書いておくべきなの? 相続問題で専門家に頼むと幾らかかる? 税理士、元国税専門官、ド素人の対話形式で、相続のリアルをわかりやすく解説する。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:3./ 229p
978-4-478-12194-8
¥1,760〔税込〕

共和国における動物～フランス革命と動物の権利の起源 1789-1802 年～(叢書・ウニベルシタス　1183)

ピエール・セルナ 著

法政大学出版局

恐怖政治の記憶が今だ鮮明な 1802 年、パリの国立学士院が募集した、人間と動物の関係をめぐる懸賞論文を読解。今日の<動物の権利>やエコロジー思想の起源に遡る歴史学の挑戦。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:5./ 268p
978-4-588-01183-2
¥3,960〔税込〕

都市殺し～ジェントリフィケーション・不平等・抵抗～

Ｐ・Ｅ・モスコウィッツ 著

明石書店

アメリカで急速に発展し、日本でも進行する「都市殺し」。ジェントリフィケーションにより都市中心部が美しく整備される一方で、コミュニティが破壊され、人々が住まいを奪われるさまを克明に描く。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:6./ 337p
978-4-7503-5943-4
¥3,520〔税込〕

日本語はひとりでは生きていけない

大岡 玲 著
集英社インターナショナル
ヤマト王権における漢字の導入から J-POP の歌詞まで。日本語の歴史は、漢字への原点回帰と反発、英語への憧憬と揺り戻しという相克の歴史だった。移ろいゆく世界に対応し、今も変化し続ける融通無碍な日本語の来歴に迫る。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:6./ 443p
978-4-7976-7463-7
¥2,970〔税込〕

終わりよければ、すべてパッション!

高橋 奈七永 著
彩図社
倒産、ケガ、病気…。最後に笑えれば全部 OK! 元プロレスラー・高橋奈七永が、全日本女子プロレス時代からマリーゴールドに所属し、引退を迎えるまでの 28 年を余すところなく綴る。日高郁人らとの対談も収録。

日本経済新聞 2025/07/26

2025:5./ 351p
978-4-8013-0774-2
¥2,500〔税込〕

スティグリッツ資本主義と自由

ジョセフ・E・スティグリッツ 著
東洋経済新報社
超富裕層による搾取をどう食い止めるのか? トランプ後の世界はどこへ向かうのか? 公正で自由な社会を推進するのはどのような経済なのか? ノーベル賞経済学者が、これからの経済社会に関するビッグピクチャーを描く。

日本経済新聞 2025/07/26、毎日新聞 2025/07/26

2025:6./ 512p
978-4-492-31564-4
¥3,080〔税込〕

君たちの記念碑はどこにある?〜カリブ海の<記憶の詩学>〜

中村 達 著
柏書房
西洋の思想家が信奉する歴史の「外」に置かれてきた、カリブ海作家たちが想像/創造するオルタナティヴな思想の精華は、どのような姿をしているだろうか? カリブ海の風景に沈む地域的記憶を訪ねゆく試みをまとめる。

日本経済新聞 2025/07/26、毎日新聞 2025/07/26

2025:6./ 351p
978-4-7601-5632-0
¥2,530〔税込〕

祖父の見た陸軍中野学校〜一期生の資料は語る〜

池田 真之 著
岩波書店
祖父は後方勤務要員養成所、後の陸軍中野学校出身の情報将校であった-。一期生たちが遺した資料などを用いて、謎多き組織の等身大の姿に迫る。また、法制度や組織面から、当初の設立理念や期待された役割なども考察。

毎日新聞 2025/07/05

2025:5./ 252p
978-4-00-025585-1
¥2,860〔税込〕

丸刈りにされた女たち～「ドイツ兵の恋人」の戦後を辿る旅～(岩波現代文庫　社会 353)

藤森 晶子 著
岩波書店
第二次大戦中に「支配者」であるドイツ兵と愛し合い、解放後に見せしめとして丸刈りにされたフランス人女性たち。彼女たちをたずねて 2004 年にフランスに渡った著者が、その困難に満ちた戦後の人生を綴った記録。

毎日新聞 2025/07/05

2025:4./ 238p
978-4-00-603353-8
¥1,166〔税込〕

オスマン帝国全史～「崇高なる国家」の物語 1299-1922～(講談社現代新書 2770)

宮下 遼 著
講談社
多民族・多宗教の大帝国はいかに栄え、そして滅びたか。アナトリアの誕生から帝国の解体まで、600 年にわたるオスマン帝国の興亡を、気鋭のトルコ文学者が最新の研究成果に拠りながら描く。

毎日新聞 2025/07/05

2025:3./ 518p
978-4-06-539188-4
¥1,650〔税込〕

東京タワー～オカンとボクと、時々、オトン～(新潮文庫)

リリー・フランキー 著
新潮社
オカン。ボクの一番大切な人。ボクのために自分の人生を生きた人－。大切な人との記憶、喪失の悲しみを綴った傑作。

毎日新聞 2025/07/05

2010:6./ 522p
978-4-10-127571-0
¥935〔税込〕

ソフトバンクホークス 4 軍制プロジェクトの正体～新世代の育成法と組織づくり～(光文社新書　1360)

喜瀬雅則 著
光文社
2023 年から 4 軍制を導入した福岡ソフトバンクホークス。王貞治、小久保裕紀をはじめ、4 軍制に携わる 23 名への取材を通して、新世代の選手育成法と組織づくりを分析し、世界一を目指すプロジェクトを追う。

毎日新聞 2025/07/05

2025:5./ 406p
978-4-334-10649-2
¥1,320〔税込〕

誰のために何のために建築をつくるのか

伊東　豊雄 著
平凡社
自然と共存する現代建築は可能か。人にやさしい現代建築とは何か。そして建築家は誰のために、何のために建築をつくるのか。世界的建築家が現代建築のあり方を自由に思索する。図版も多数収録。

毎日新聞 2025/07/05

2025:4./ 165p
978-4-582-54481-7
¥2,750〔税込〕

英文学者がつぶやく人生を豊かにするかもしれない英語と英国文化の話

安藤　聡 著

平凡社

他国とは一味違った特有の文化がある英国。英文学者が、英語、スポーツ、地下鉄、文学など、英国の雑多な無駄話を綴る。「英文学者がつぶやく英語と英国文化をめぐる無駄話」の続編。

毎日新聞 2025/07/05

2025:5./ 237p
978-4-582-83986-9
¥2,750〔税込〕

追跡公安捜査

遠藤浩二 著

毎日新聞出版

捜査員からの「捏造」発言も飛び出した大川原化工機事件。真犯人が名乗り出たにもかかわらず、立件せず公訴時効を迎えた警察庁長官狙撃事件。警察組織の“失敗の本質”に迫る。『毎日新聞』本紙およびウェブ連載に加筆・修正。

毎日新聞 2025/07/05

2025:3./ 281p
978-4-620-32825-6
¥1,870〔税込〕

王朝時代の実像<9>　装束

承香院　奥川一臣 著

臨川書店

天皇家から都市民にいたる王朝時代を生きた人々と、その社会・文化の実態にせまる。9 は、平安中期の衣の形状や機能性について、古記録、美術、文学作品に描かれる分析を踏まえつつ、縫製・着用・動作の実践を通して探究する。

毎日新聞 2025/07/05

2025:5./ 318p
978-4-653-04709-4
¥4,400〔税込〕

この社会に、建築は、可能か

伊東豊雄 著

青土社

繁華街に次々と林立する超高層ビル群。生きられた街並みの記憶は消滅し、街の相貌は一変する。誰のために、建築はつくられるのか。現代建築の第一人者が、<美しい建築とは何か>を根底から考察する。

毎日新聞 2025/07/05

2025:5./ 553p
978-4-7917-7681-8
¥5,940〔税込〕

日本列島大地の成り立ち図鑑

北中康文 著

文一総合出版

大地の成り立ちを知れば、もっと絶景を楽しめる! 日本の 165 の絶景を地形がわかりやすい写真で紹介し、どのように地形ができたのかをマンガを交えて図解する。カルデラや峡谷といった用語も詳しく解説。

毎日新聞 2025/07/05

2025:6./ 159p
978-4-8299-9026-1
¥2,200〔税込〕

心の鎧の下ろし方

三砂 ちづる 著
ミシマ社
闇など誰にでもある。あなたはどこにでも行ける-。24 年の教師生活を終え、竹富島に移住した著者が、人生の機微を深いまなざしで見つめ続ける、珠玉のエッセイ集。『みんなのミシマガジン』連載に加筆し書籍化。

毎日新聞 2025/07/05

2025:6./ 220p
978-4-911226-20-9
¥2,090〔税込〕

内調～内閣情報機構に見る日本型インテリジェンス～(ちくま新書　1854)

岸 俊光 著
筑摩書房
1936 年に情報委員会が設置される前夜から、動揺する国際秩序への対応を迫られた 1972 年頃までの日本の内閣情報機構の実態を、3 人のキーパーソン、横溝光暉、吉原公一郎、志垣民郎の残した資料と証言をもとに描く。

毎日新聞 2025/07/05、朝日新聞 2025/07/19

2025:4./ 510p
978-4-480-07682-3
¥1,540〔税込〕

わたしがナチスに首をはねられるまで(CREST BOOKS)

ミリアム・ルロワ 著
新潮社
ナチスの将校を単身襲い、斬首され歴史から消されたロシア系移民のマリーナ。その生涯は、同じ女性として、男性中心の世間でさまざまな抑圧やハラスメントに苦しんできた著者の人生と重なり…。史実を踏み越える小説。

毎日新聞 2025/07/05、東京・中日新聞 2025/07/06

2025:5./ 280p
978-4-10-590200-1
¥2,530〔税込〕

聊斎本紀

闇 連科 著
河出書房新社
絵画の中で生を得る絵師、人間の心臓を食べて転生する妖女、狐と人間の交歓など、千夜一夜物語のごとく紡がれる世にも不思議な 36 の物語を収録。清代の古典怪異短篇集「聊斎志異」を再創作し、オリジナルの物語を加える。

毎日新聞 2025/07/05、日本経済新聞 2025/07/26

2025:5./ 451p
978-4-309-20925-8
¥5,280〔税込〕

どうせ世界は終わるけど

結城 真一郎 著
小学館
100 年後に小惑星衝突! 衝撃ニュースが世界を駆け巡る。日常が変わらず続く中、将来への悲観や厭世は足元に迫り…。未来なき世界で希望を編む人々を描く連作短編集。『STORY BOX』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2025/07/07

2025:6./ 333p
978-4-09-386754-2
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

普天を我が手に<第 1 部>

奥田 英朗 著

講談社

戦争、革命、陰謀、青春、差別、音楽-。大正 15 年 12 月、たった 7 日間しかなかった昭和元年に生まれた 4 人は、互いの運命を交差させながら、新たな時代を切り拓き…。『小説現代』連載を書籍化。

毎日新聞 2025/07/07、毎日新聞 2025/07/26

2025:6./ 599p
978-4-06-538876-1
¥2,695〔税込〕

大いなる遺産～新訳～<上>(角川文庫 テ 7-4)

ディケンズ 著

KADOKAWA

両親と死別して孤児になり、鍛冶屋の修業を始めたピップに、匿名の人物から巨額の遺産が贈られるという知らせが届いた。ピップは紳士修業のためにロンドンに旅立つが…。英国文学の金字塔を新訳。

毎日新聞 2025/07/12

2025:6./ 415p
978-4-04-115282-9
¥1,078〔税込〕

大いなる遺産～新訳～<下>(角川文庫 テ 7-5)

ディケンズ 著

KADOKAWA

成り上がりの紳士となったピップの前に、思ってもみなかった人物が現れ、夢の人生はおかしな方向へ。エステラの結婚の噂、ピップの恩人の謎、殺人事件の犯人は…。英国文学の金字塔を、ラストの真意がわかるよう新訳。

毎日新聞 2025/07/12

2025:6./ 431p
978-4-04-115285-0
¥1,078〔税込〕

星になっても

岩内 章太郎 著

講談社

「どうしてじいじは死んじゃったの?」 息子の問いに、私はうまくこたえることができなかった-。哲学者の著者が、父の死をきっかけに書き綴った、喪失と回復の道のりを優しくたどるエッセイ。『群像』連載に加筆修正。

毎日新聞 2025/07/12

2025:4./ 251p
978-4-06-539136-5
¥1,980〔税込〕

鳥類学者の半分は、鳥類学ではできてない

川上 和人 著

新潮社

主戦場は、岩盤登攀とか、洞窟探検とか、学会運営とか、ラジオ出演…。鳥類学を普及する道は曲がりくねって楽しい! 理系蛮族「鳥類学者」の著者が、抱腹絶倒、命がけの日々を綴る。『小説新潮』連載を書籍化。

毎日新聞 2025/07/12

2025:5./ 248p
978-4-10-350913-4
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

とんかつ屋のたまちゃん

安藤 玉恵 著
幻冬舎
実家は、元花街、東京・尾久のとんかつ屋「どん平」。数々の地元での伝説を持つ父、太宰治好きで、ファンキーで臥せりがちな母、母を一緒に看病した兄…。俳優・安藤玉恵が、破天荒な家族と愉快な街の記憶を綴る。

毎日新聞 2025/07/12

2025:5./ 119p
978-4-344-04411-1
¥1,540〔税込〕

1945 最後の秘密

三浦 英之 著
集英社クリエイティブ
人は戦時下で、どう生きようとしたのか。「101 歳の元満州国官僚が死の直前に綴った最後の極秘計画」「原爆に奪われた元タカラジェンヌ・園井恵子の希望」など、戦後 80 年の沈黙を破る衝撃の真実を伝える。

毎日新聞 2025/07/12

2025:6./ 285p
978-4-420-31108-3
¥2,200〔税込〕

死刑について私たちが知っておくべきこと(ちくまプリマー新書 491)

丸山 泰弘 著
筑摩書房
冤罪があれば取り返しのつかない「究極の刑罰」にもかかわらず、その実態は知られていない日本の死刑制度。死刑にはどのような問題があるのか、維持するのならどうあるべきか、考えるための土台を示す。

毎日新聞 2025/07/12

2025:5./ 195p
978-4-480-68522-3
¥990〔税込〕

SNS 選挙という罠～自分の頭で考え直すために～(平凡社新書　1084)

物江　潤 著
平凡社
虚実入り混じる SNS 選挙の時代に何を信じればよいのか? SNS 選挙の構造と危険性を検証するとともに、ネット上にあふれる情報との向き合い方を「自立の思想」を論じた戦後最大の思想家・吉本隆明の言葉から考える。

毎日新聞 2025/07/12

2025:6./ 206p
978-4-582-86084-9
¥1,100〔税込〕

シシになる。～遠野異界探訪記～

富川 岳 著
亜紀書房
遠野には、見えないものたちの世界がある。その扉をひらいたのが“シシ踊り”だった-。東京の広告代理店を辞め、遠野に移住した著者が、郷土芸能の現場で伝統と創造の狭間で揺れながら、文化振興に取り組む日々を綴る。

毎日新聞 2025/07/12

2025:6./ 334p
978-4-7505-1877-0
¥2,530〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

民話という視座～非戦・反戦の思想と行楽・観光のはざまに～

野村　典彦 著
清文堂出版
戦蹟や伝説の地を巡る戦前の旅行や観光の中の「語り」。「民話」の受容、農民文学運動、国民的歴史学運動との関連。民俗学者・児童文学者における「民話・昔話・伝説」。それらを通じ「民話」や「語り」の意味の変容をたどる。

毎日新聞 2025/07/12

2025:4./ 352p
978-4-7924-1539-6
¥7,700〔税込〕

マンションポエム東京論

大山顕 著
本の雑誌社
空と緑の都市に咲くあだ花か、アーバンライフの幻想か…。スペックを伝えるのではなく、雰囲気を詩的に綴ったマンション広告のコピー=ポエムに託された<東京>の正体を読む。『本の雑誌』等掲載を改稿、書き下ろしを追加。

毎日新聞 2025/07/12

2025:6./ 342p
978-4-86011-604-0
¥2,970〔税込〕

皇后の碧

阿部 智里 著
新潮社
かつて火竜に家族を焼かれた少女ナオミは、風の精霊を統べる皇帝から「私の寵姫の座を狙ってみないか」と誘われるが…。悪名高き皇帝の居城に隠された、平和の裏の真実とは。謎が謎を呼ぶ、新次元の精霊ファンタジア。

毎日新聞 2025/07/12、産経新聞 2025/07/27

2025:5./ 322p
978-4-10-355951-1
¥1,980〔税込〕

谷川俊太郎のあれやこれや

谷川 俊太郎 著
筑摩書房
単行本初収録のエッセー、詩、亡き人たちへの追憶、パロディ、若き日の戯曲、そして自伝風の読む年譜。谷川俊太郎ワールドの魅力全開、欲ばりで楽しいヴァラエティブック。

毎日新聞 2025/07/12、読売新聞 2025/07/13

2025:5./ 333p
978-4-480-81698-6
¥2,530〔税込〕

イソップ童話<上>(偕成社文庫)

イソップ 著
偕成社
毎日新聞 2025/07/19

1983:5./ 221p
978-4-03-550720-8
¥770〔税込〕

イソップ童話<下>(偕成社文庫)

イソップ 著
偕成社
毎日新聞 2025/07/19

1983:5./ 231p
978-4-03-550730-7
¥770〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

荷風の昭和<前篇> 関東大震災から日米開戦まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。前篇は、関東大震災から日米開戦までを収録する。

毎日新聞 2025/07/19

2025:5./ 567p
978-4-10-603927-0
¥2,860〔税込〕

荷風の昭和<後篇> 偏奇館焼亡から最期の日まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。後篇は、偏奇館焼亡から最期の日までを収録する。

毎日新聞 2025/07/19

2025:5./ 590p
978-4-10-603928-7
¥2,860〔税込〕

となりの史学～戦前の日本と世界～

加藤陽子 著

毎日新聞出版

なぜ戦争は避けられなかったのか。近代の「戦争」と「世界」について、世界の第一線の歴史学者らが考え尽くした研究の成果を、モリナガ・ヨウのイラストを交えて紹介する。東京大学出版会の PR 誌『UP』連載を元に単行本化。

毎日新聞 2025/07/19

2025:5./ 317p
978-4-620-32837-9
¥2,200〔税込〕

きいろいバス

ローレン・ロング 著

あすなろ書房

子どもたちを家から学校へ送迎する黄色いスクールバス。バスはよろこびにあふれていました。しかし時がたち、動かなくなったバスは置き去りにされ…。忘れ去られたバスが、ふたたび幸せに輝ける場所を見つける物語。

毎日新聞 2025/07/19

2025:6./ 48p
978-4-7515-3257-7
¥1,980〔税込〕

広告の昭和～テレビ CM がやって来る!～

竹内 幸絵 著

青土社

広告の首座が名実ともに印刷媒体から電波媒体に移行した時代、昭和。名作だけではない、多くの「そのとき普通の人々の身近にあった」広告図像を元に、広告の視座から激動の昭和を問い直す。図版も多数収録する。

毎日新聞 2025/07/19

2025:6./ 400p
978-4-7917-7719-8
¥4,950〔税込〕

一郎くんの写真～日章旗の持ち主をさがして～(たくさんのふしぎ傑作集)

木原育子 著
福音館書店
「一郎君へ」と書かれた日の丸の旗。一郎くんとは誰なのか? それをつきとめるため、現役新聞記者が静岡の町を走り回る。彼女が見つけ出した母の思いとは…。

毎日新聞 2025/07/19

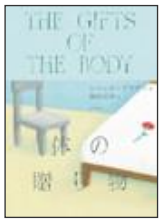
2025:7./ 39p
978-4-8340-8863-2
¥1,430〔税込〕

斜塔から

平林敏彦 著
港の人
詩人としての出発点を刻む「斜塔」、十代の時に書いた詩、最後の詩というべき「九十代詩篇」をまとめる。ほか、23 歳の評論「欺瞞者の文学」「三好達治論」なども収録。

毎日新聞 2025/07/19

2025:4./ 373p
978-4-89629-456-9
¥4,400〔税込〕



体の贈り物

レベッカ・ブラウン 著
twililight
喜びと悲しみ、生きるということを丸ごと受け止めた時、私は 11 の贈り物を受け取った-。エイズ患者とホームケア・ワーカーの交流が描き出す、悼みと希望の連作短篇。著者書き下ろし「「体の贈り物」三十年後」を収録。

毎日新聞 2025/07/19

2025:6./ 192p
978-4-9912851-9-6
¥2,420〔税込〕

ジェイムズ

パーシヴァル・エヴェレット 著
河出書房新社
逃亡する黒人奴隷ジェイムズを待ち受ける、地獄の旅路とは-。マーク・トウェイン「ハックルベリー・フィンの冒険」で脇役だったジェイムズを主人公に、彼の目から見た出来事や、その複雑な内面を描く。

毎日新聞 2025/07/19、朝日新聞 2025/07/26

2025:6./ 411p
978-4-309-20928-9
¥2,750〔税込〕

君たちはどう生きるか(岩波文庫　青 158-1)

吉野　源三郎 著
岩波書店
著者がコペル少年の精神的成長に託して語り伝えようとしたものは何か。それは、人生いかに生くべきかと問うとき、常にその問いが社会科学的認識とは何かという問題と切り離すことなく問われねばならぬ、というメッセージであった。

毎日新聞 2025/07/26

1982:11./ 340p
978-4-00-331581-1
¥1,067〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

「日本スゴイ」の時代～カジュアル化するナショナリズム～(朝日新書 1006)

早川タダノリ 著

朝日新聞出版

「クールジャパン」を始めとする国家的文化政策を筆頭に、書籍、テレビ番組など、さまざまな媒体を介して社会的に広がっていった「日本スゴイ」コンテンツは、どんな機能をはたしているのか。具体的なエピソードから読み解く。

毎日新聞 2025/07/26

2025:6./ 284p
978-4-02-295319-3
¥990〔税込〕

昭和の消えた仕事物語(角川ソフィア文庫 J134-2)

澤宮 優 著

KADOKAWA

藍染め、洗い張り屋、貸し本屋、井戸掘り師、車力屋、畳屋…。約 120 の職に就き昭和を生き抜いた放浪詩人、高木護の生涯を軸に、消えゆく仕事と携わる人々の姿、今なお現場を守り続ける職人の思いとドラマを描き出す。

毎日新聞 2025/07/26

2025:5./ 313p
978-4-04-400861-1
¥1,320〔税込〕

刑事コロンボとピーター・フォーク～その誕生から終幕まで～

デイヴィッド・ケーニッヒ 著

原書房

脚本の妙、個性的な風貌、印象的なセリフでミステリファンの心をとらえて離さないドラマ「刑事コロンボ」。主演俳優ピーター・フォークについてのみならず、監督、脚本家などの証言をもとに、ドラマの舞台裏まで網羅する。

毎日新聞 2025/07/26

2025:4./ 412p
978-4-562-07526-3
¥2,750〔税込〕

塚本邦雄の百首～塚本の血のあと～(歌人入門 13)

林 和清 著

ふらんす堂

粥煮ます母に寄り添ひ見る雨は木々の新芽に沁みゆきにけり 山川のたぎち終れるひととところ流雛かたまりて死にをる 塚本邦雄の短歌を百首取り上げ、一首ずつ丁寧に読みとく。巻末に解説も収録。

毎日新聞 2025/07/26

2025:6./ 203p
978-4-7814-1730-1
¥1,870〔税込〕

仁左衛門花実抄

宮辻 政夫 著

法蔵館

十五代目片岡仁左衛門の芸の特徴はどこにあるのか、表現している人物像はどういうところが独自なのか。「仮名手本忠臣蔵」の「大星由良之助」、「女殺油地獄」の「河内屋与兵衛」など代表的な 13 役を通して、芸の核心に迫る。

毎日新聞 2025/07/26

2025:5./ 243p
978-4-8318-5657-9
¥2,750〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

The Horses of Yururi Island

岡田 敦 著

青幻舎

日本の本土最東端、根室半島の沖合に浮かぶ周囲 8 キロメートルの無人島、ユルリ島。人間が住むことをやめて半世紀以上、馬たちだけが暮らす「幻の島」を撮り続けた、消えゆくものたちの姿と風景を記録する写真集。

毎日新聞 2025/07/26

2025:4./ 304p
978-4-86152-987-0
¥6,600〔税込〕

MONKEY<vol.36(2025SUMMER/FALL)> 特集オーイン・マクナミーという謎

オーイン・マクナミー 著

スイッチ・パブリッシング

北アイルランドの作家オーイン・マクナミーを特集。

毎日新聞 2025/07/26

2025:6./ 144p
978-4-88418-673-9
¥1,320〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO